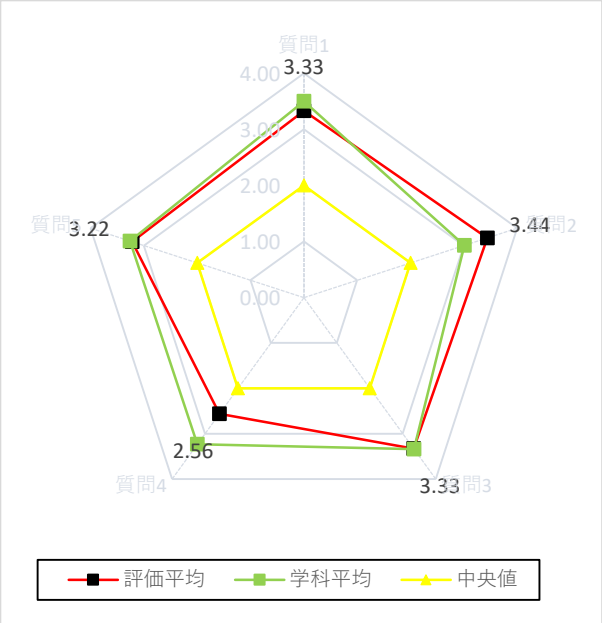
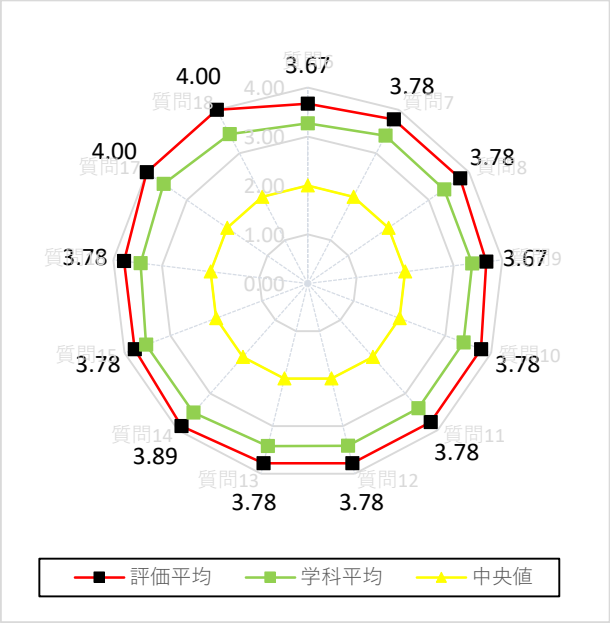
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	13名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

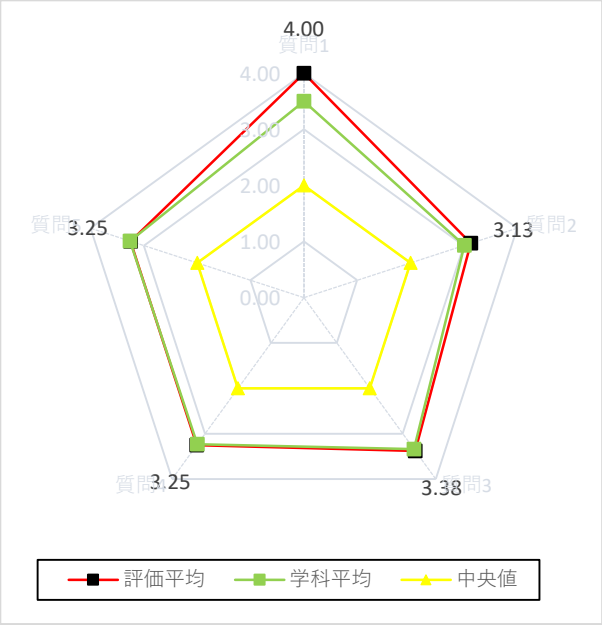
あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）　の授業評価においては、授業内容・方法および教員の対応の項目において、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、あすなろうⅠ基礎は自主性・主体性を培う授業であるので、学生自身の授業への取組みにおいては改善の余地はあると思われる。

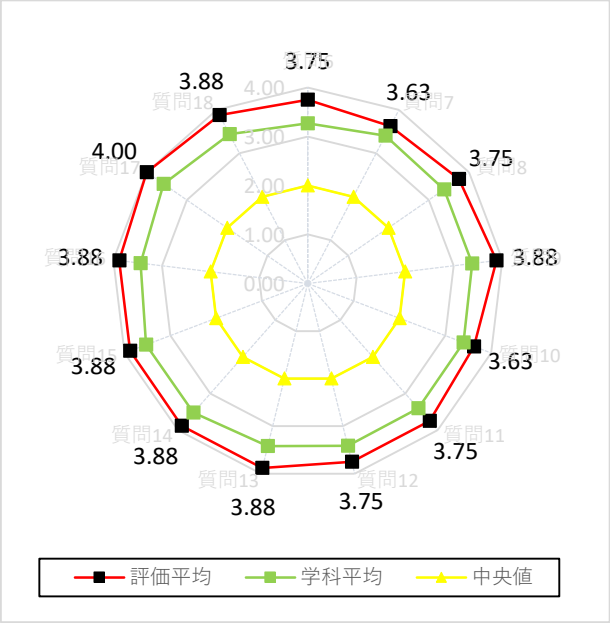
（３）次年度に向けての取り組み

あすなろうⅠ基礎は、自主性・主体性を培う授業であるので、必ず一人１回は自身の意見を発表する機会を設けるなど、授業の内容をより自主的な学習を促す工夫を重ね、学生自身の授業参加態度に関する評価項目が高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	14名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

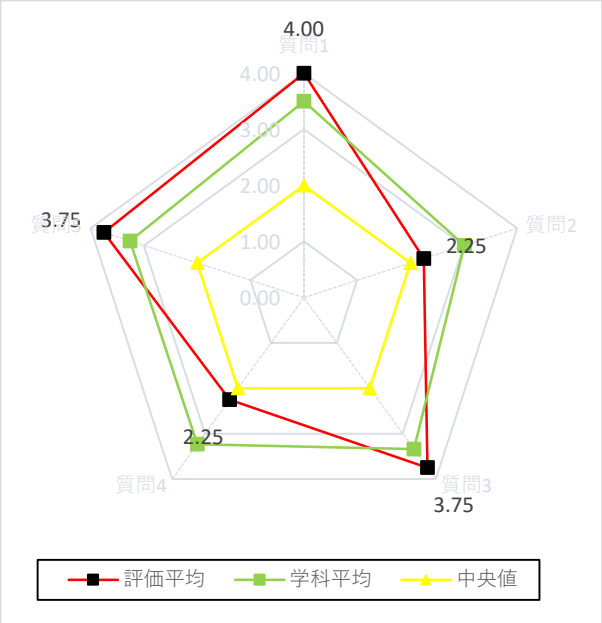
ほとんどの項目が学科平均より高く、満点に近いものもあった。
少人数での担任制なので、大学生としての導入の科目として適した内容であったといえる。
非常に評価が高い科目であったが、教員にとっては負担の多い科目であった。

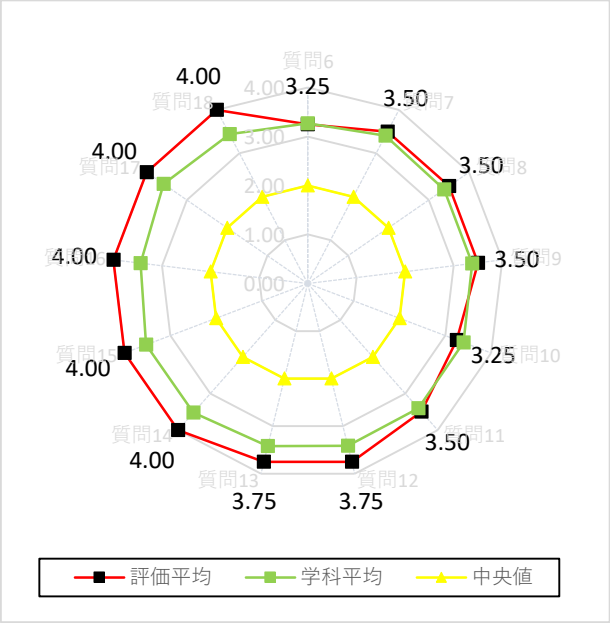
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、授業内容をリニューアルして行うこととしている。
特に、テキストを変更し、大学生としての自覚やモチベーションをさらに伸ばすような工夫をしている。
教員に対する負担も少し減らすように考慮する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	12名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

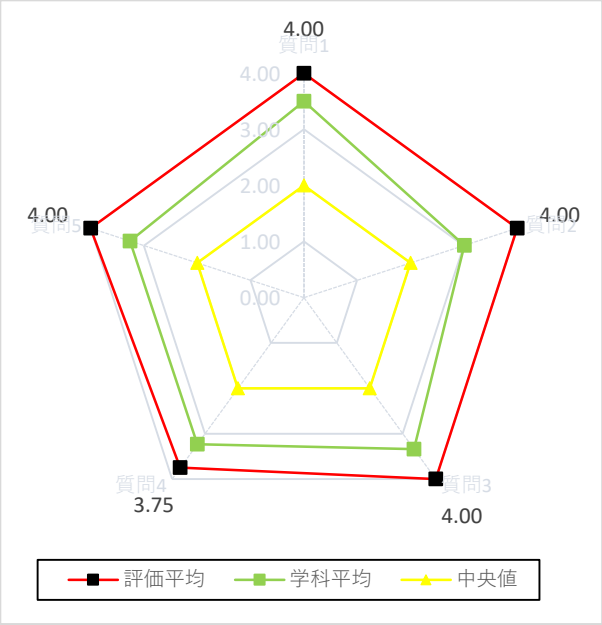
受講者12人中4人が回答してくれた。質問1から5をみると、質問4の評価が低かった。ただ、この科目は、学問というより、マナーや教養を高める科目であったので、そこまで工夫して授業に臨むことはなくても、十分授業を理解できたためだと思われる。そのため、質問5のように、自己評価は高くなったと思われる。質問6から質問18では、高く評価された質問が多かった。総合評価が4であるため、来年度もおおむねこのやり方でよいと思われるが、6～11は、まだ高得点をとることができるので、講義のやり方は、もう少し工夫できないか検討する必要がある。

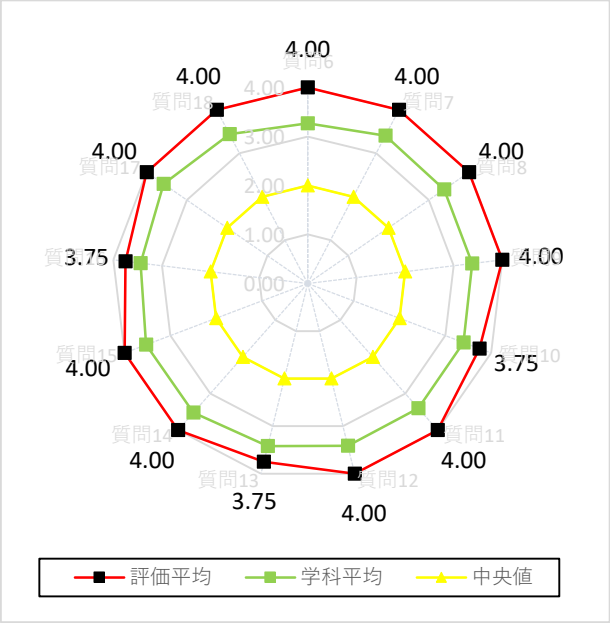
（３）次年度に向けての取り組み

評価が良かったので、大きな変更を行うつもりはないが、常にどんな授業が学生にとって有意義な授業なのか考えながら、行っていきたい。
この授業は、ゼミ別講義と全体講義から成り立っている。全体講義だと、どうしても学生は受け身になりがちなので、学生に講義の重要性を説明し、内容をわかりやすくして、しっかりときいてもらうように準備が必要であると考える。また、ゼミ別講義は、距離が近すぎる分、授業という形になりにくいこともあるので、その点を注意して授業を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	13名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

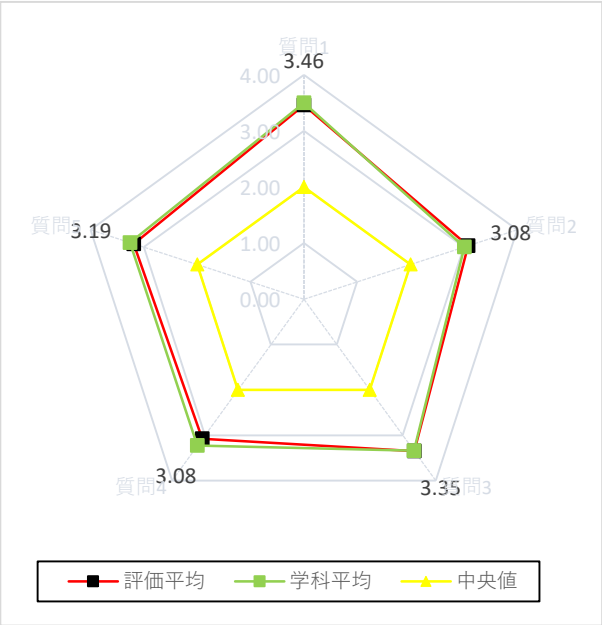
あすなろうⅠ基礎の授業評価結果の分析においては、質問1から18までの全てにおいて、学科平均より0.5点程度高いという結果となった。特別に低い項目は無かった。学生はほぼ満足すべき内容であったと感じている。基本的な授業の進行は十分に行えていたと思われる。本授業は本学への入学生を社会へ送り出すための最初のステップとして、社会人としての常識的なマナーやスキルを身につけさせることにあると考えられる。また、本学科での勉学への取り組みの姿勢を身につけさせることも重要である。学生は様々なボランティアを体験し、この授業の意義を感じてくれたことが良い評価につながったのであろうと考えている。

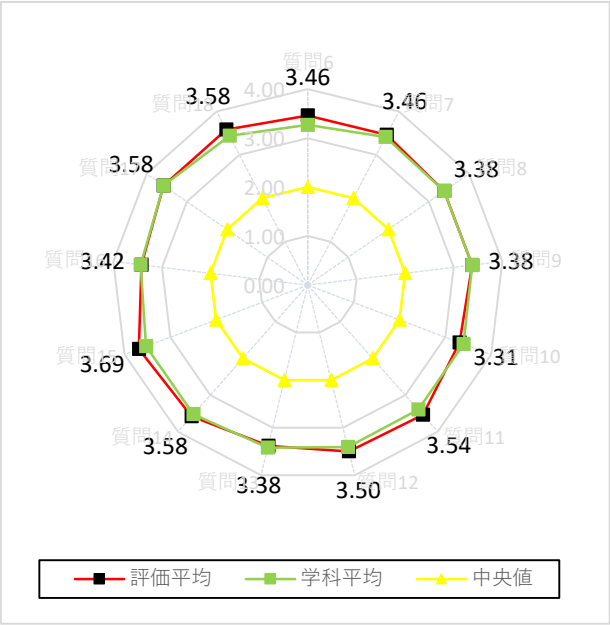
（３）次年度に向けての取り組み

評価が良かったことから、次年度に向けても同じような取り組みで良いと考えられる。しかし、多少の授業内容の変更が計画されているので、新規の内容に対しての対応が必要である。あすなろうの授業においては、授業内でのやり取りだけでなく、ポータルサイトを通じた学生との双方向のやり取りも大切である。これはポータルサイトのシステムや操作、一年間の内容も全体を把握できているので、それぞれの授業において、本授業の目標を目指して授業を進めていきたいと思う。新入生は新しい環境の中でさまざまな不安や壁にあたることもあると思うが、学科のカリキュラムの進行に沿ったアドバイスを授業の中でしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 看護		生活支援	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

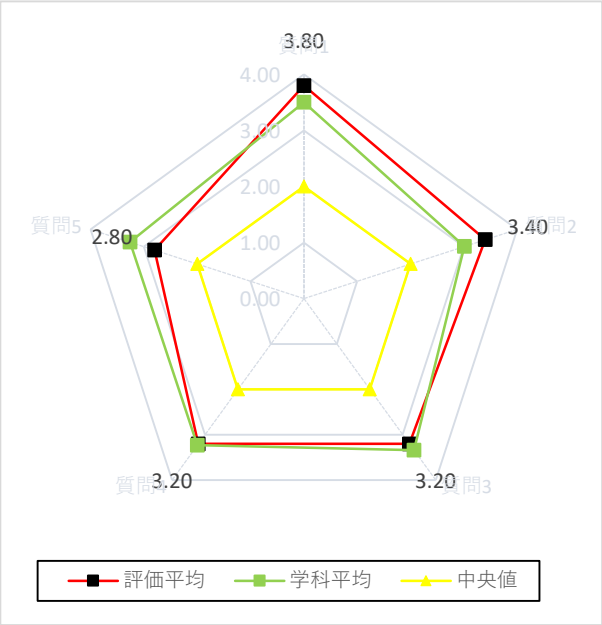
全ての項目において、ほぼ平均と同じ値の評価が得られた。

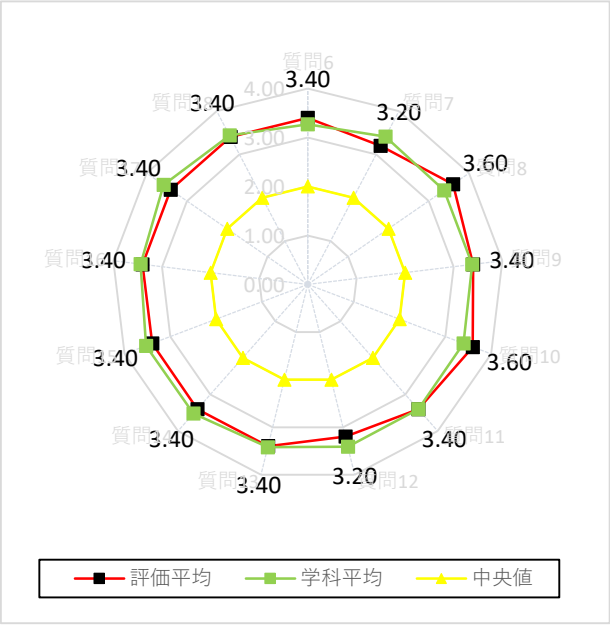
（３）次年度に向けての取り組み

本科目は各学科から計9名の教員が担当するオムニバス形式で実施されていることから、内容の統一化と共に、受講学生に戸惑いや不安感を与えないよう注意し展開していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 看護		地域連携	25名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

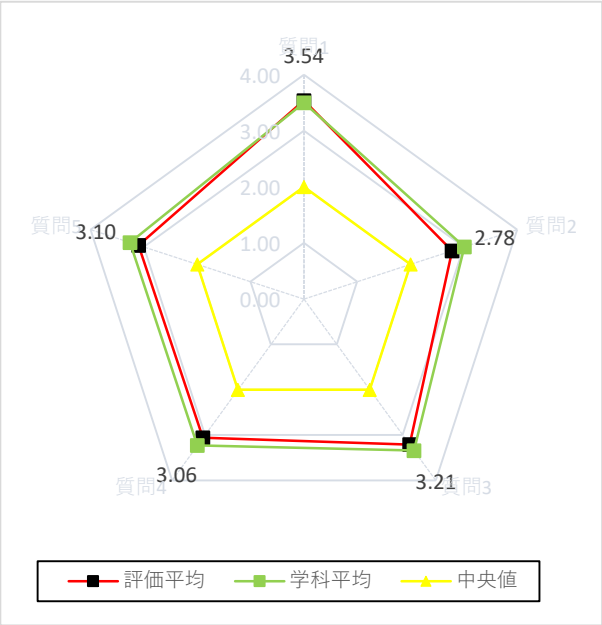
学生の自己評価が低い傾向にある。授業に関しては、質問７、１２、１７が低い傾向にある。

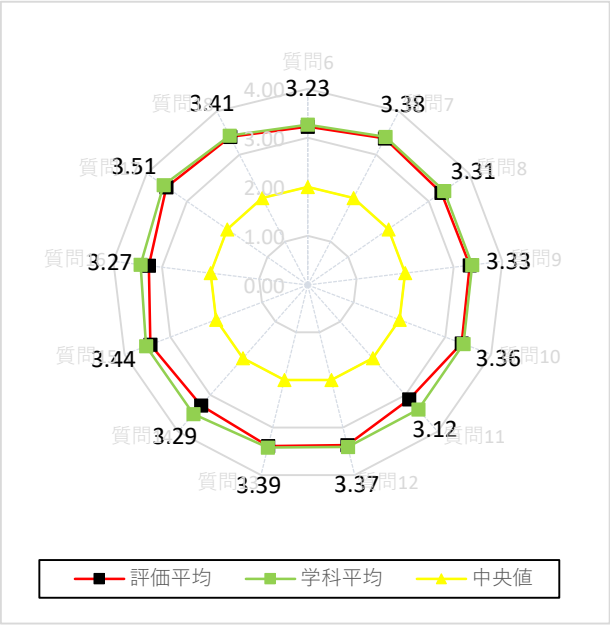
（３）次年度に向けての取り組み

オムニバス形式で複数の教員が担当する科目であることから、教員間での評価のばらつきが生じたと思われる。次年度は教員間での情報共有を強化し、授業に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		現代社会と倫理	205名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

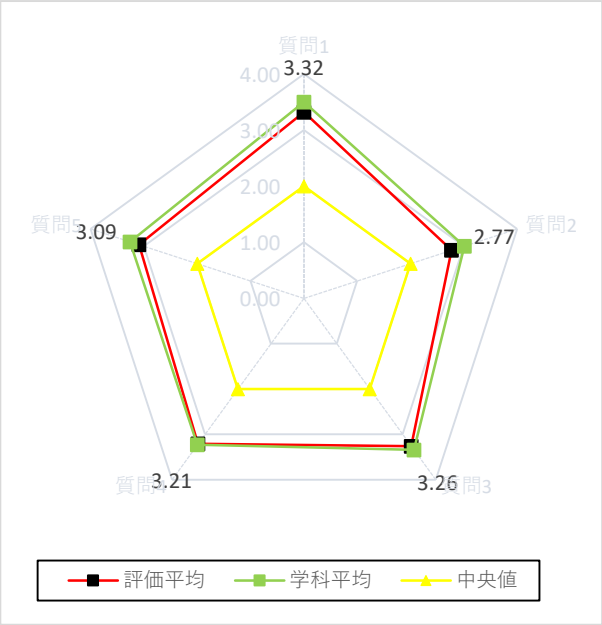
シラバスの説明、教科書、学生の質問、双方向授業、の4項目で学科平均を下回っている。

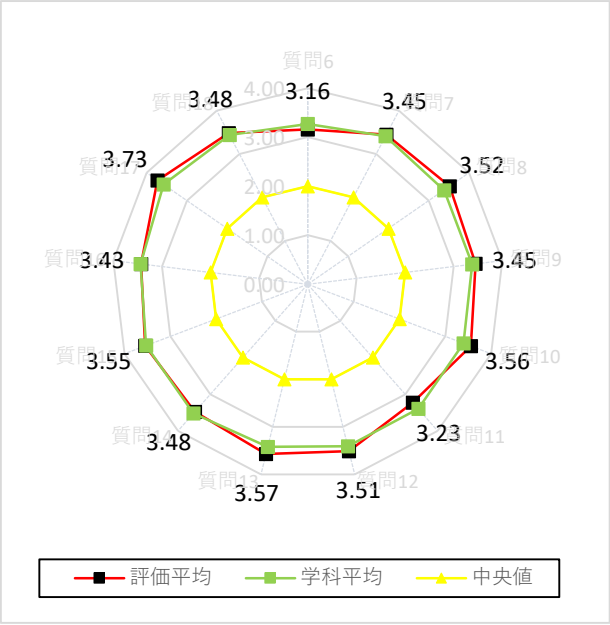
（３）次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回っている項目に関しては、さらに気をつけた授業運営に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		人間論と現代思想	201名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

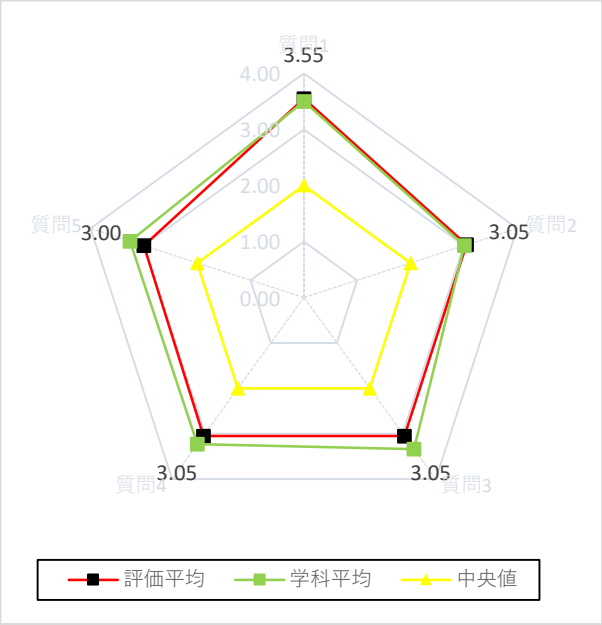
ほぼすべての項目で学科平均値に近い数値を示している。シラバスの説明、教科書についての評価が若干低くなっている。

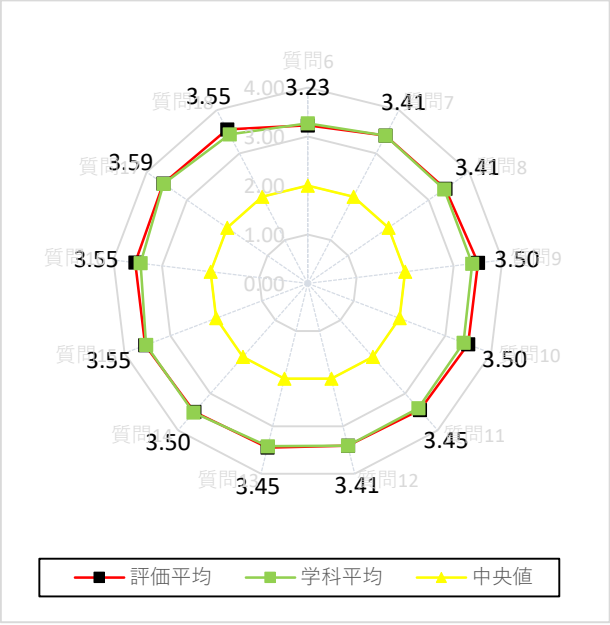
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスの説明は行っているが、まだ十分に認識されていないことがわかった。教科書も使用しないことを説明しているが、こちらも十分に認識されていない。次年度は説明をもっと十分に行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 心理カウンセリング 看護		脳と認知科学	69名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

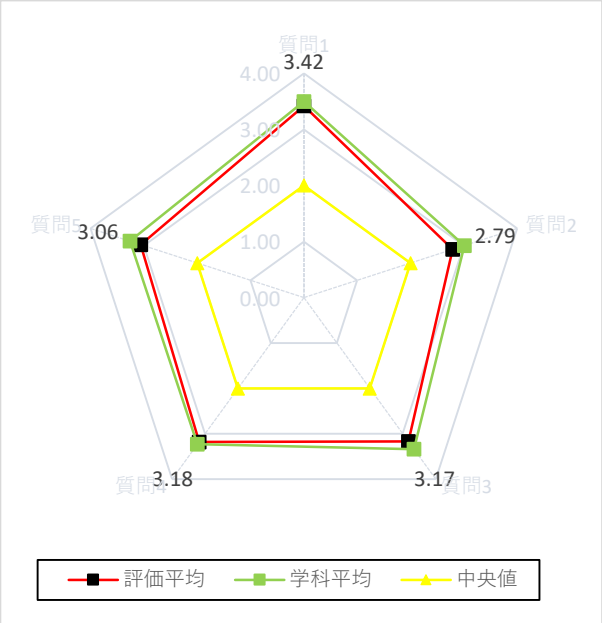
全学的に興味を持ってもらうための工夫が教員間でできていたと思われます。

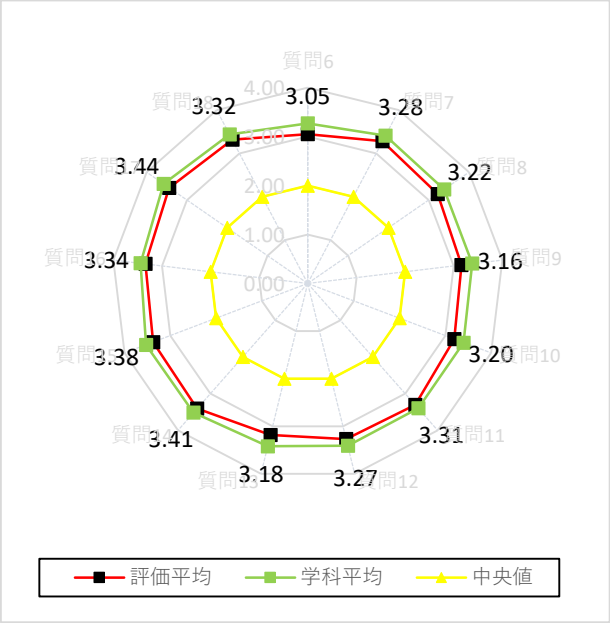
（３）次年度に向けての取り組み

さらに興味を持って頂けるように、身近な内容を取り込みながら講義を進めていきたいと考えます。
単位取得のみを狙って受ける上級生がおり、受講態度などで悪影響も出ており、それらの学生さんに注意を促すなどの措置も考えたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		法学	154名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

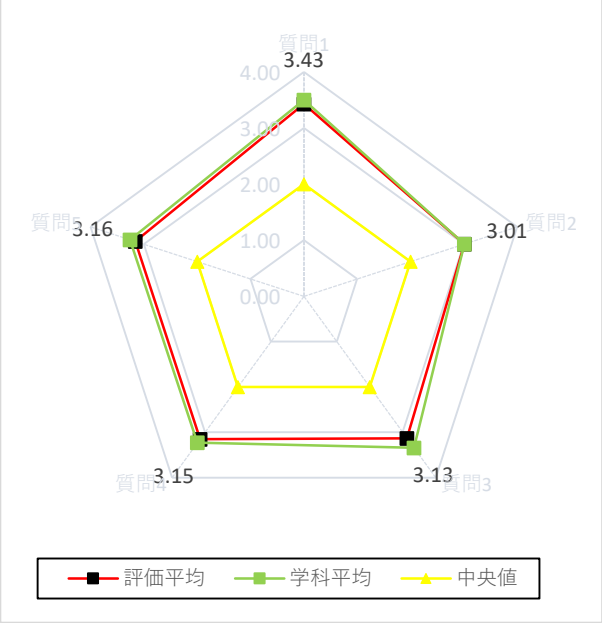
基本的には平均値と同様の分布であったが、全体的に平均値をやや下回る結果となった。
100人を超える大講義なので、やむを得ない部分もあるが、細かな対応をすることで、学生からの評価を得られるようにしたい。

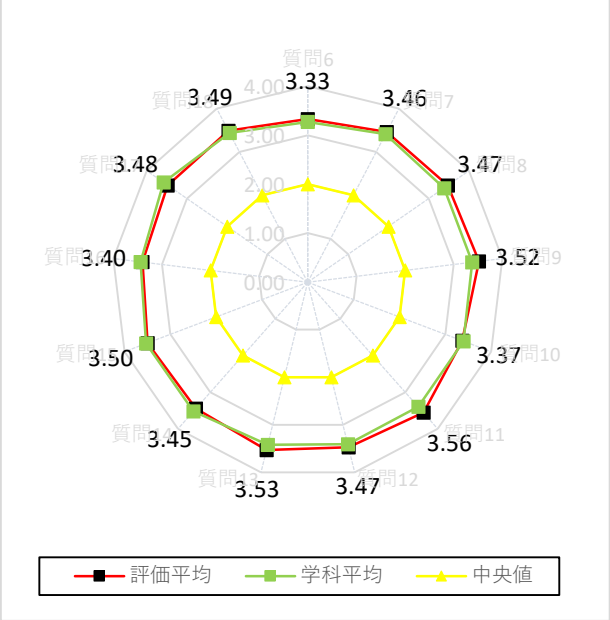
（３）次年度に向けての取り組み

学生対応（質問対応など）を細かくしたい。授業中に質問を対応する時間を作ったり、リアクションペーパーの配布を試みたい。それらを授業内でフィードバックすることを予定している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		くらしと経済	222名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

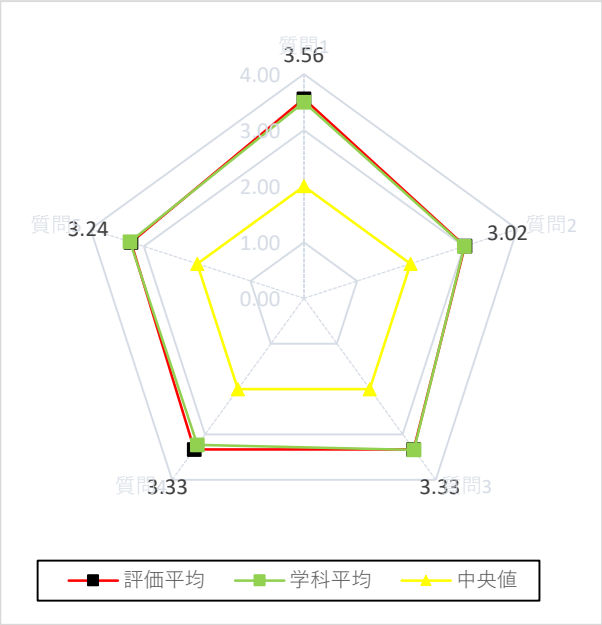
授業評価の結果は、概ね学科平均に収斂するものとなったが、特定の項目では学科平均を下回るものもあった。これは今後改善していくべき課題であり、工夫していきたいと考える。学科平均との比較があることによって課題が明確になるので、この分析結果はとても参考になる。また、授業評価は学生諸君の意見を直接きくことのできる稀有な機会であり、授業の改善に大いに役立つものと考える。くらしに役立つ経済の知識を習得していくことが授業の狙いであったが、授業評価から鑑みてこれはある程度達成できているものと考える。ただ、黒板の文字が見えにくいなどの意見もあり、今後改善していきたい。□
□

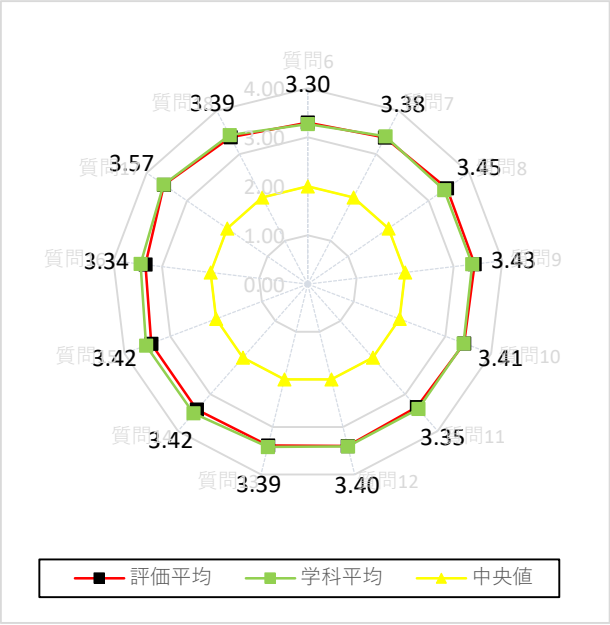
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスの説明についての項目に関してはやや評価が低かったが、これはもう少し時間をさいて、丁寧に説明したいと思う。初回の授業で話してはいるのだが、多岐におよぶ項目で、理解しにくいのかもしれないと思われる。したがって、今後は論点をしぼって、わかりやすく説明したいと思う。さらにシラバスそのものを使用しつつ説明を加えていきたいと思う。黒板の文字が見えにくい場合は、配布資料でカバーするなどしていきたい。次年度においては、わかりやすい資料の作成と説明をさらに向上させていきたいと考えている。また、学生諸君が飽きないように時々穴埋め形式のプリントなども作成し配布したいと思う。そして、学生諸君が経済に関する知識をできるだけ増やせるように全力で取り組んでいきたいと考える。□

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		身近な生活の化学	176名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

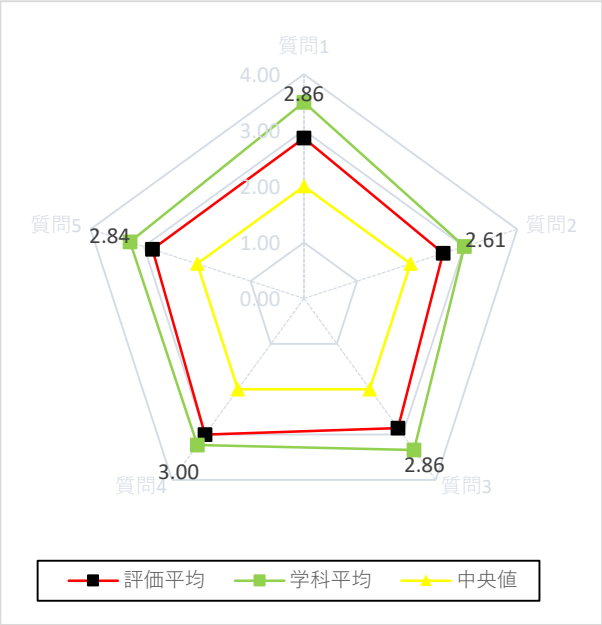
概ね学科平均と同等の結果であった。教養科目であるため、すべての学科の学生が受講しているため、どのレベルに標準を合わせるべきか、いつも悩んでいる。また、大人数なので油断するとすぐうるさくなるので、授業に集中させるのが大変だった。工夫した点と言えば、興味を引くようなDVDを見せたり、難しい反応を例を挙げて説明したりと、できるだけわかりやすく、そしておもしろく説明することを心掛けた。

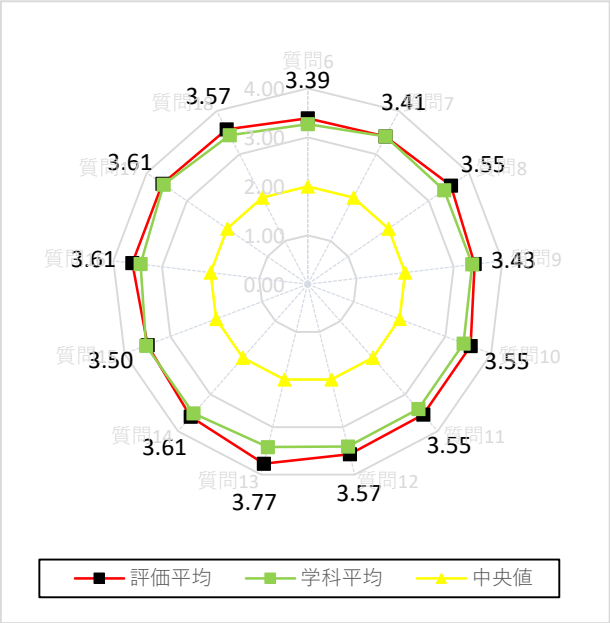
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、理系文系を含めた大人数が受講することが予想される。化学と言えば、難しいというイメージがあるので、身近な例を挙げてわかりやすく教えることをモットーとしたいと思う。よい教材を探し、興味を引くような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		健康運動科学	54名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

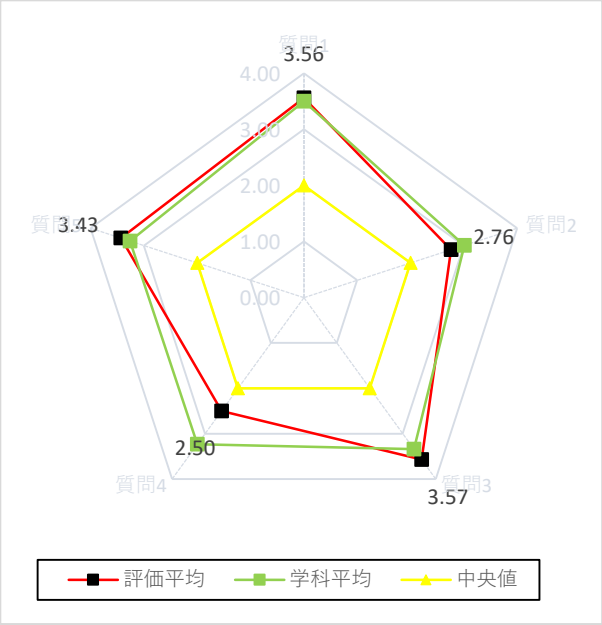
本科目は共通教育科目/健康スポーツ(選択科目)として、1年次の後期に開講している。初級･中級障がい者スポーツ指導員の資格取得に必修であり、健康福祉学部生29名、および健康栄養学部生25名の履修者であった。
結果から、教員に関する質問項目6-18に関しては概ね学科平均と同程度の評価を得た。一方、学生の意欲･態度に関する質問項目1-5に関しては学科平均を下回る結果となり、学生自身の意欲を引き出す声かけが必要であると考えられる。

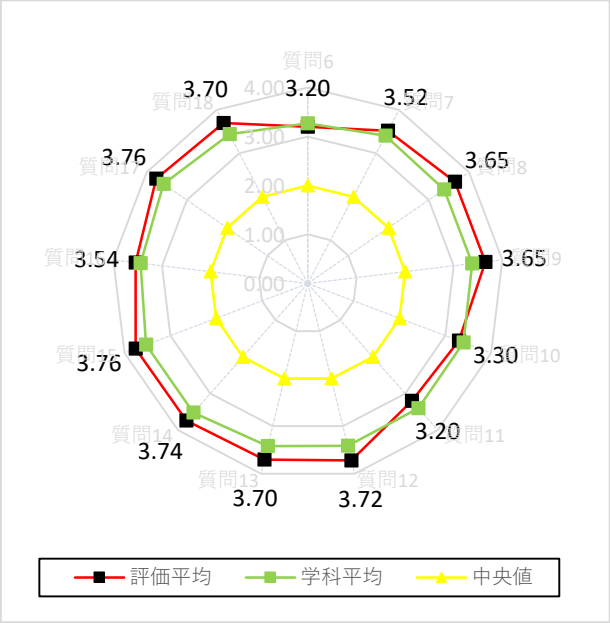
（３）次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す声かけ等を行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	68名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

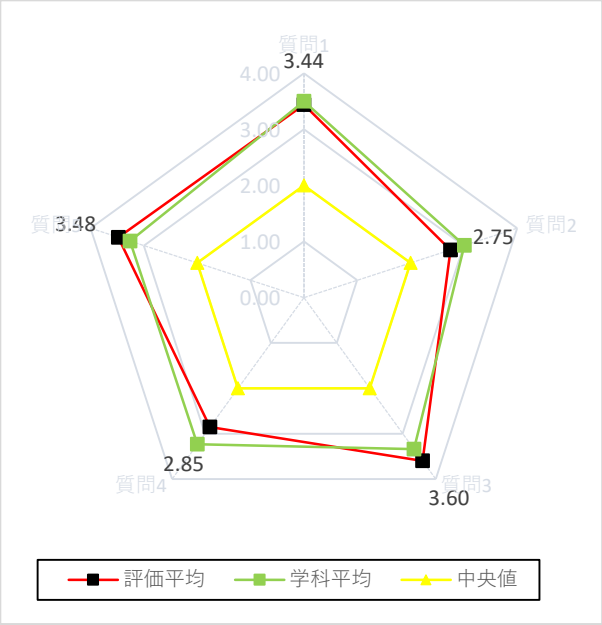
新生活が始まり、初めてあう同級生、教師など不安もあったと思われるが、身体を一緒に動かすということでうまくコミュニケーションがとれ、楽しい雰囲気の中で気持ちよく動けたのではないかと思う。

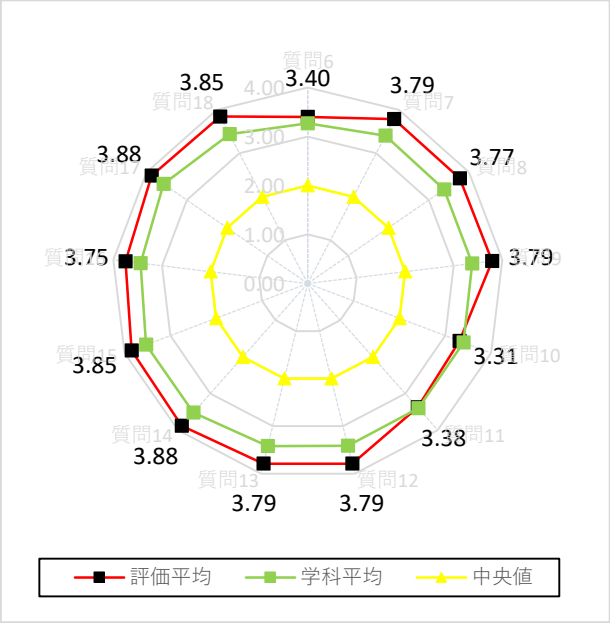
（３）次年度に向けての取り組み

積極的に授業に参加できるように学習内容や目的をはっきりさせる。コミュニケーション力が身に付くような学習方法の工夫。学生の体力アップや健康作りに繋がるように授業内容の充実。また、授業準備がしやすいように、次回授業の伝達。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		フィットネス・スポーツ	55名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

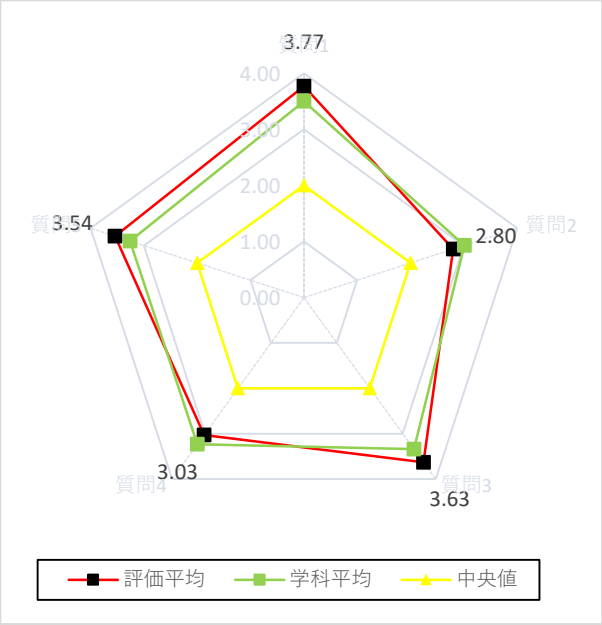
授業づくりにおいて、殆どの学生が満足しており、心とからだのリラクゼーションにも役立ったものと思われます。

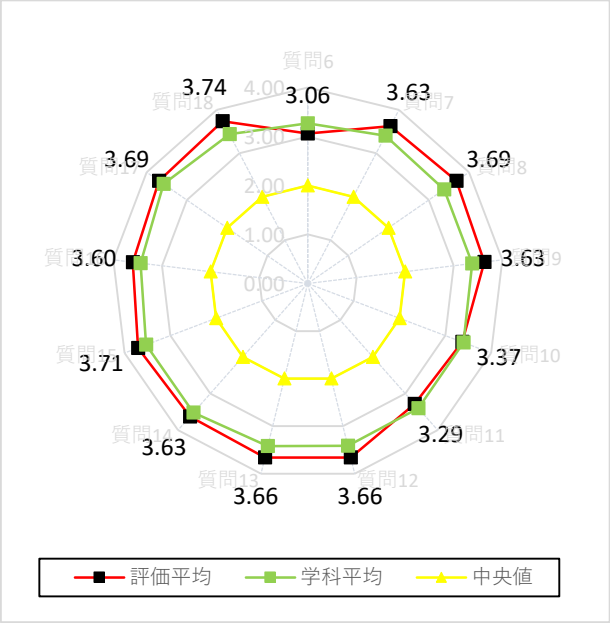
（３）次年度に向けての取り組み

学生のニーズを把握し、より満足度を高めるような種目の開設を目指した授業づくりに努めたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ウェルネス・スポーツ	67名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

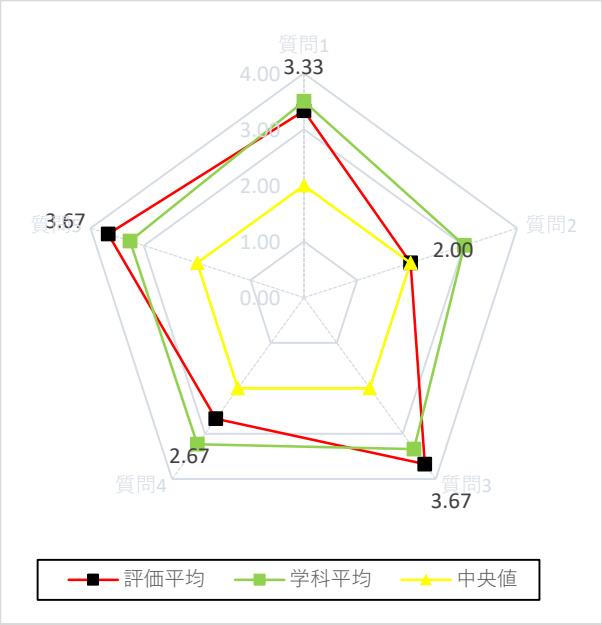
新生活が始まり、初めて会う同級生、教師など不安もあったと思われるが、一緒に身体を動かすことで、うまくコミュニケーションが取れ、楽しい雰囲気の中で積極的に授業に参加できたのではないかと思う。

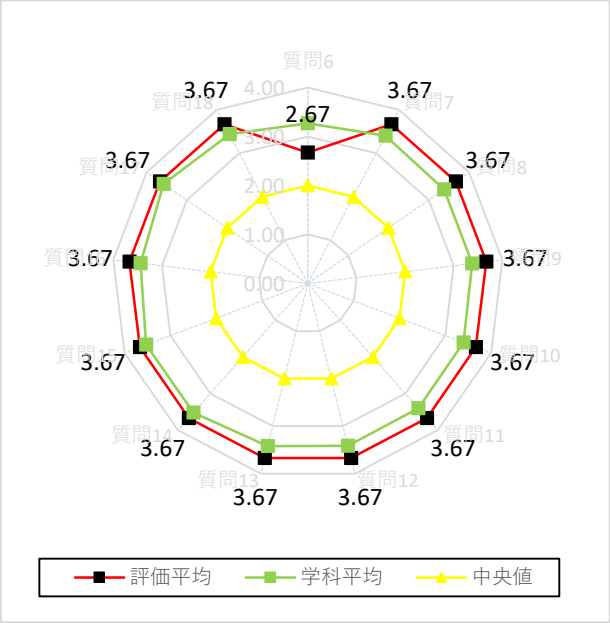
（３）次年度に向けての取り組み

積極的に授業に参加できるように学習内容や目的をはっきりさせる。コミュニケーションがとりやすい学習方法の工夫。学生の体力アップや健康作りに繋がる授業内容の充実。また、授業準備がしやすいように次回授業の伝達。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ウェルネス・スポーツ	58名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

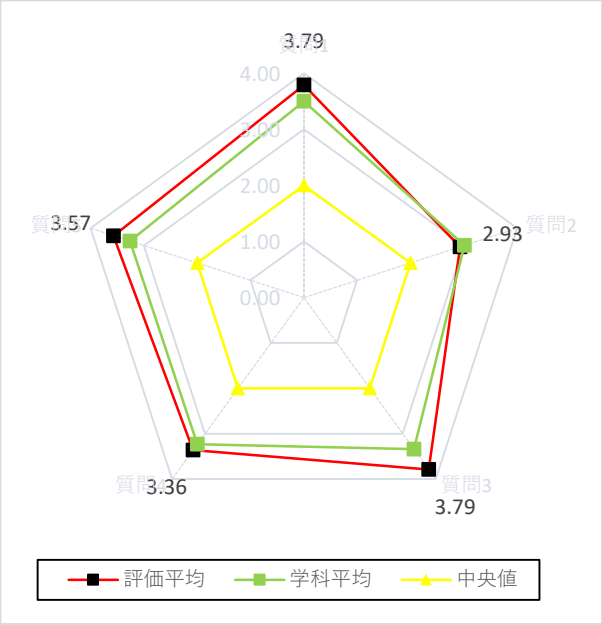
本科目は共通教育科目/健康スポーツの実技(必修科目)として、2年次に通年(隔週)で開講している。教職をはじめ、各種のスポーツ関連資格取得に必修であり、健康栄養学部生58名が履修した。
履修学生58名のうち3名から回答があった。学生の意欲･態度に関する質問項目1-5のうち質問2、および教員に関する質問項目6-18のうち質問6の「シラバスの活用」に関して学科平均を大きく下回る結果であったことから、授業計画を効果的に活用する必要があると考えられる。

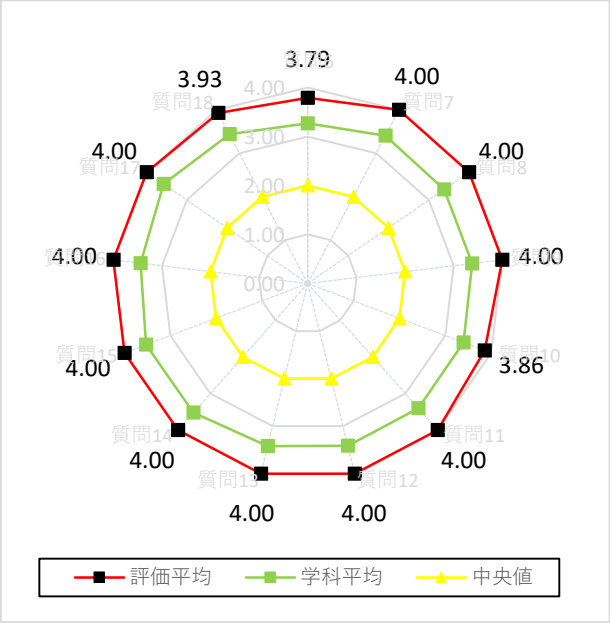
（３）次年度に向けての取り組み

この科目は旧カリキュラムでの開講科目であり、次年度以降は開講されないが、他の科目を担当する際の参考にしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ウェルネス・スポーツ	32名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

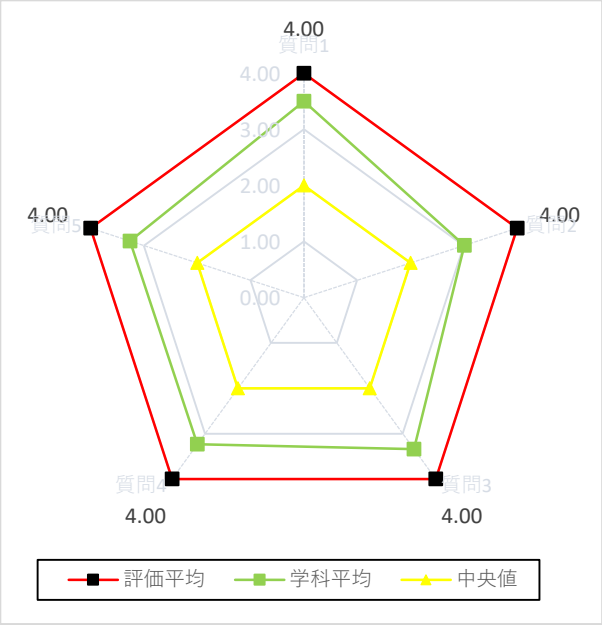
学生からみる授業づくりについては、ほぼ満点という評価であり、授業者として喜びを感じているところです。

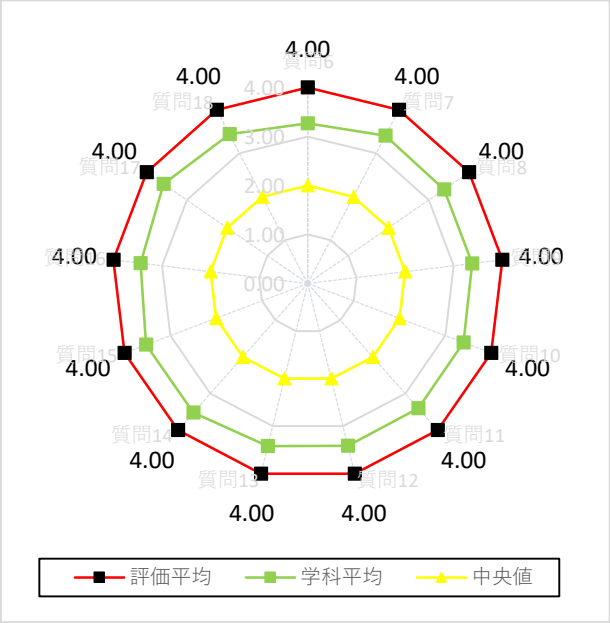
（３）次年度に向けての取り組み

これまでの授業づくりにさらに工夫し、自ら積極的に活動できる学生を増やしたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ウェルネス・スポーツ	21名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

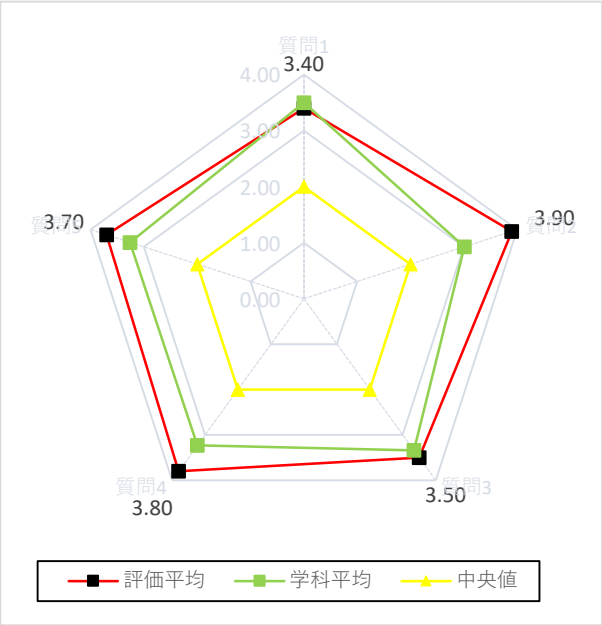
・学科平均との比較：学科平均を上回っている。学生自身が好きなスポーツ種目に対する思いが強かったが、健康運動としてのスポーツの関連で実施した結果である。
・授業の目標及び授業の工夫：学生はウエルネス・スポーツを生涯スポーツの観点で実施したことが結果として表れている。
・授業全般に対する反省点：授業導入時点での授業内容の説明や、授業を進める上で注意などの確認がもっと必要であった。

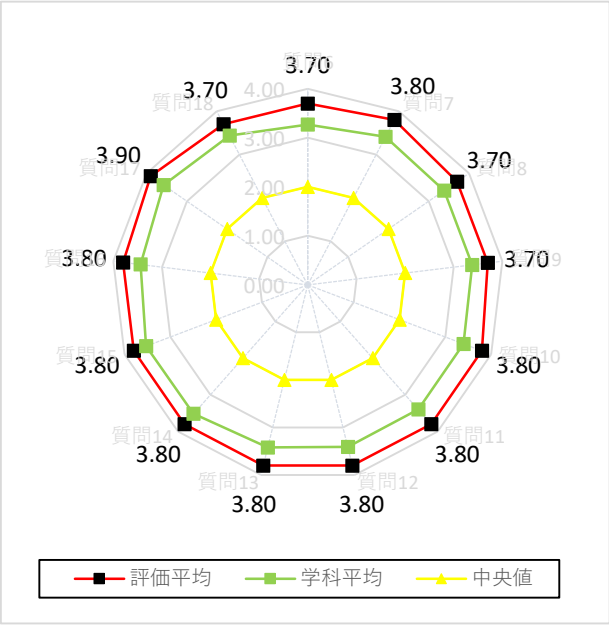
（３）次年度に向けての取り組み

・授業内容・方法の改善については、シラバスの詳細な説明を十分に行う。
・次年度導入したい授業方法は、毎時間の健康運動に対するミニレクチャーと課題テーマを課す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション 子ども		文化人類学	21名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

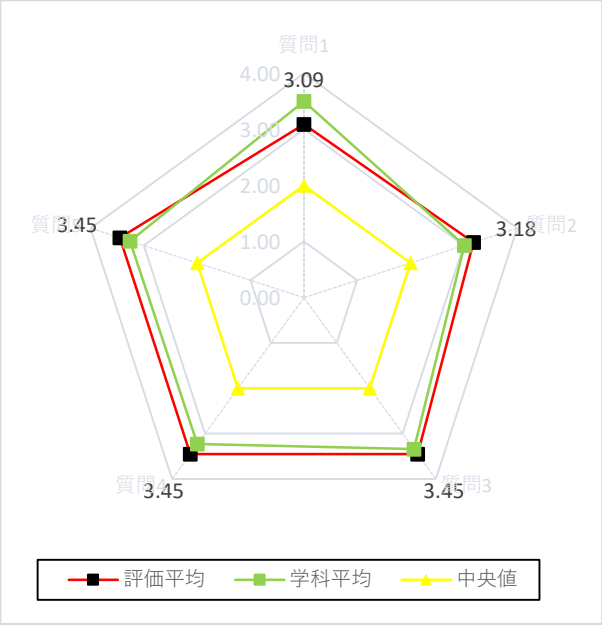
全体的には高評価であったと思う。
ただし、学生に何か作業をさせるという面において
不充分だったと思われる。もちろん、講義時間中ではなく、
講義外に発展的にしてもらうというのが本筋だと思うが、
より能動的なものも積極的に取り入れたい。

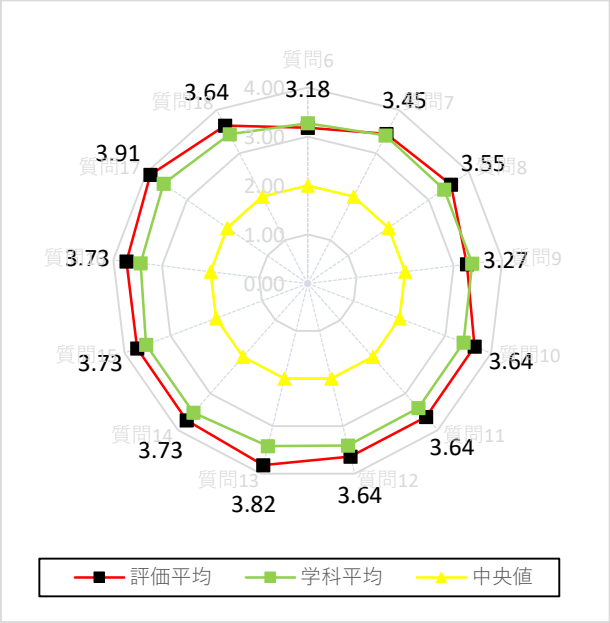
（３）次年度に向けての取り組み

学生へのワーク的な内容を取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング		変わりゆく国際社会を生きる	36名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

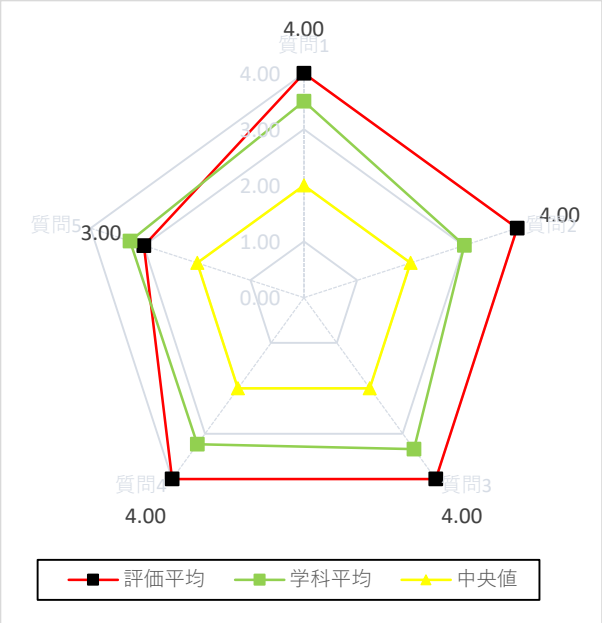
授業の分かりやすさのみ、学科平均値を下回っている。

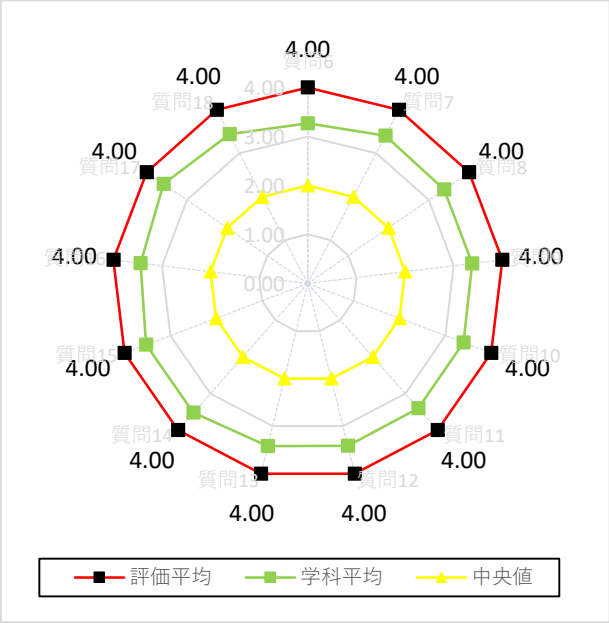
（３）次年度に向けての取り組み

学科平均値を下回った項目については、担当者間で話し合い、強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		総合英語Ⅱ	36名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

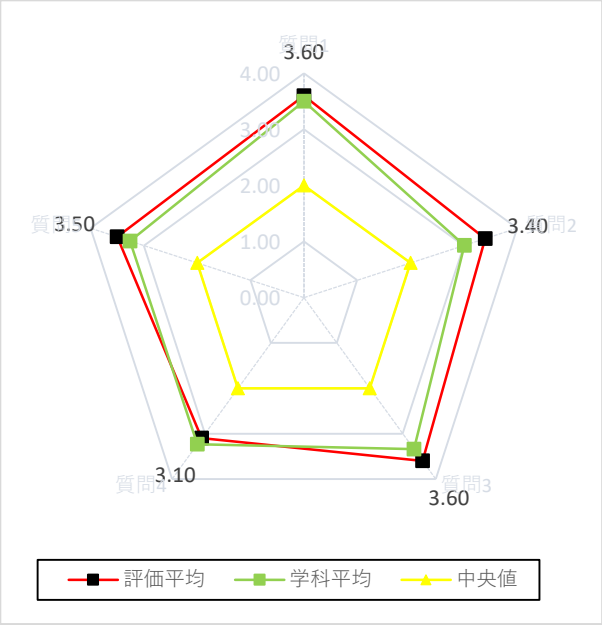
この授業に対して学生は概ね満足していたように思う。しかしながら質問５が学科平均より低いことを見ると、授業内容に対して自分なりにがんばったもののまだ不十分であったと感じていたということだと思う。教員からみてこのクラスは授業に対して大変積極的に取り組んでくれたと感じている。満足感を与えてあげられなかったのは残念であるが、逆にいえばまだ高いところへいこうとするモチベーションの表れともとれるので、これはこれでよいかと考えている。

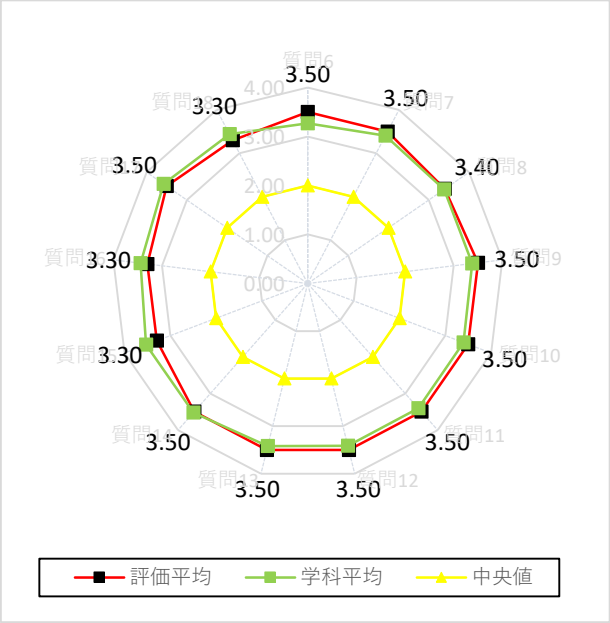
（３）次年度に向けての取り組み

総合英語の授業はカリキュラムから消えるので、この授業の内容を今後リニューアルしていくことはない。しかしBasic Englishに多少なりともこの授業でやっていたような内容を盛り込んでいる。今までの授業で得られた学生の指導に関するいい部分（例えば授業中に個人個人とのコミュニケーションをしっかりとったり、シラバスの説明を毎回きちっとおこなったりというようなこと）をしっかり反映していきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		英語表現Ⅱ	36名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

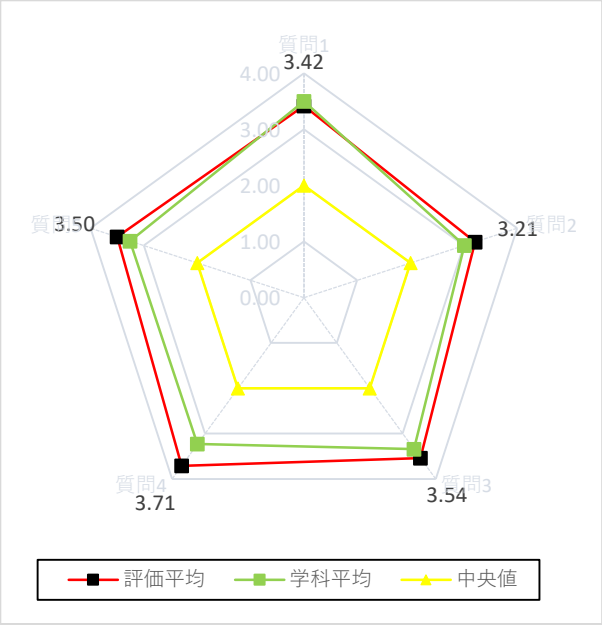
基本的な表現を覚えこんでいくタイプの英作文の授業ということもあり、やるべきことはある程度はっきりしていたから理解するために自分で工夫したりする余地はあまりなかったかもしれない。しかし質問１５、１６あたりが学科平均よりも低いというのはちょっと意外だった。授業の後半は学生との個人的なやりとりで進むタイプの課題を行っており、その中で双方向的に、そして公平に対応していたつもりであったが、どうやら学生はそのように思ってくれなかったということか。こういった結果になることもあるということを念頭に、今後一層公平に、双方向的なやりとりを授業中にとりいれるように心掛けていきたい。

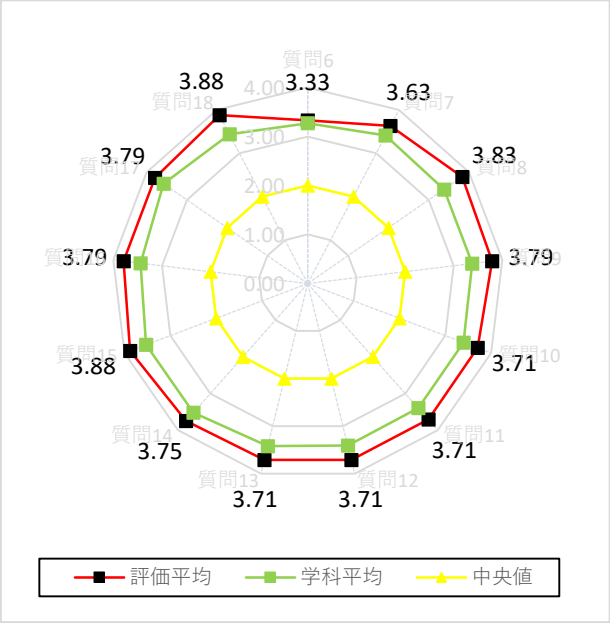
（３）次年度に向けての取り組み

英語表現Ⅱの授業はカリキュラムから消えるので、この授業の内容を今後リニューアルしていくことはない。代わりとなるGlobal Englishではいわゆる英作文というよりはインターネットを使った更に実践的なカリキュラムが組まれている。そういった教材を用いるのはこちらも初めてなので多少手作繰りのような感じにはなると思うが、今までの授業で得られた経験をもとに、より個人個人に目が届くような授業を展開していきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部 子ども学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 リハビリテーション 子ども 心理カウンセリング 看護		Global Communication (English)	34名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

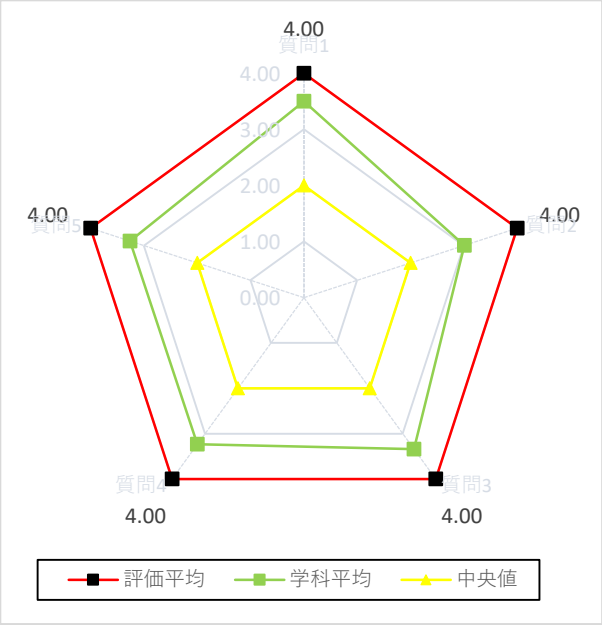
今年内容や先生の変更がありました。学生の反応はよかったと思います。
　質問１－５に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に取り組み姿勢や自己評価は平均並みでした。
　質問６－１８に関しては、質問６は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。

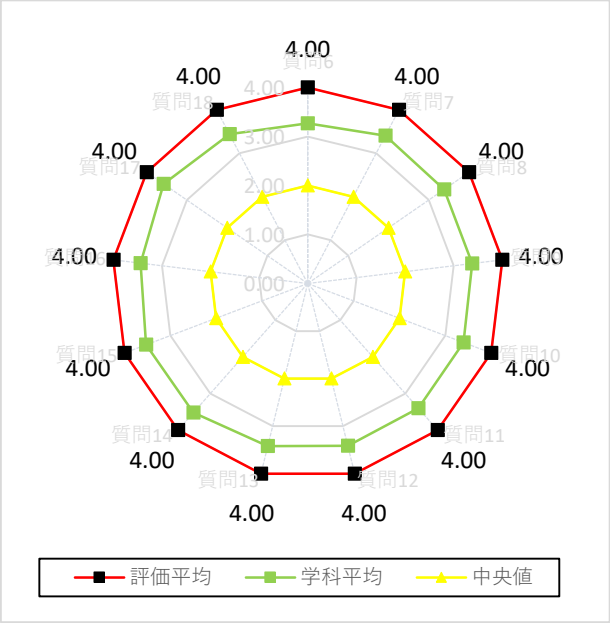
（３）次年度に向けての取り組み

まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が１００％になったらいいデーターだと思われますので、１００％を目指して回答してもらいたいです。
　次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。
データーを見ますと授業の内容ややり方を少し変える必要あると思います。前年度より英語の基本理解の授業が物足りない反応がありましたので、POST　GCEで工夫をして次年度に生かして行います。先生方の熱心さが伝わっていると思います。全体の評価画はとてもいいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学セミナーⅡ	34名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

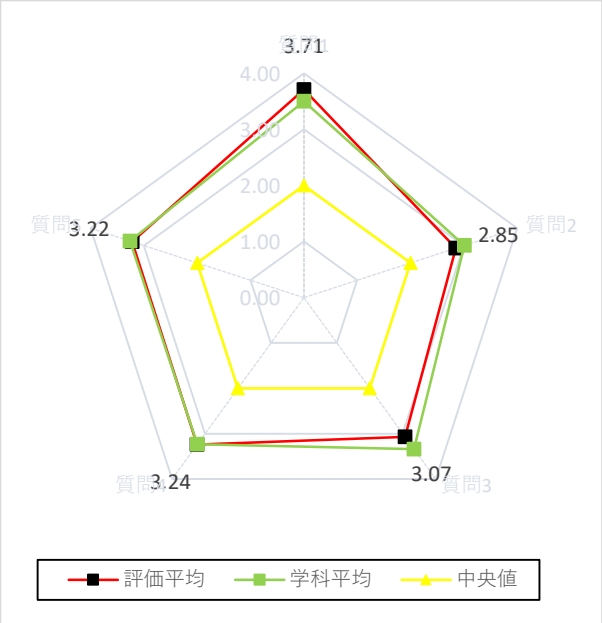
出席率、授業計画の理解、授業への取り組みについて、大変良好であり、課題に対しても積極的に参加することができていた。
グループでの活動を中心に、対象とする地域の地域診断、地域住民に対する栄養教室の企画、実施、運用等を実際に経験する授業であり、この一連の流れを経験することにより、学生たちは自分自身の意識・態度の変化を顕著に感じることができている。

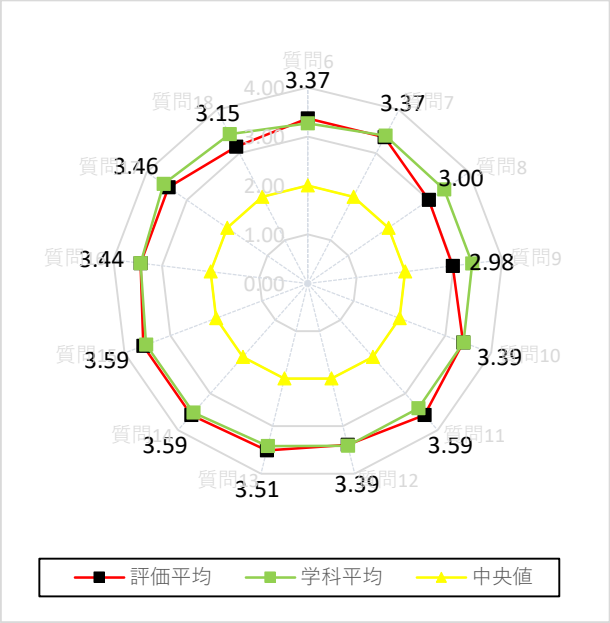
（３）次年度に向けての取り組み

栄養教室実施における評価、反省等を次年度の内容に反映するよう努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学	129名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

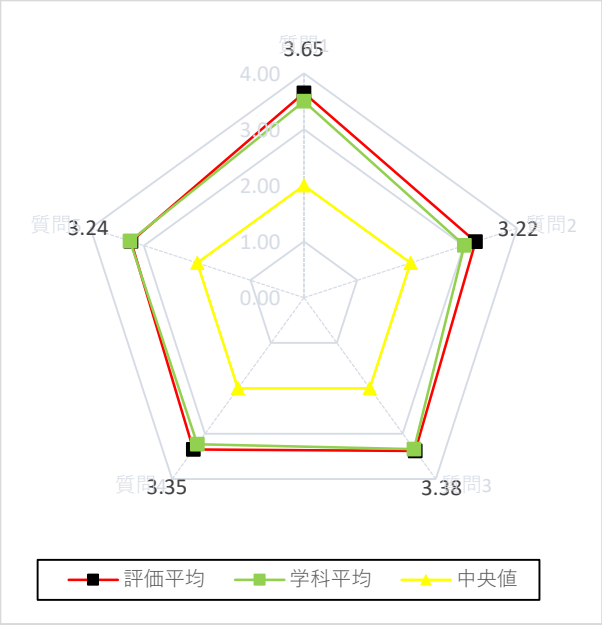
食品学の授業評価においては、項目8、9、18が学科平均よりやや低かった。8と9は授業への関心や分かりやすさの項目であり、少し難解であったと学生が感じているようであった。前年度はいずれの項目においても学科平均とほぼ同じであったので、今年の学年にとっては分かりづらかったようである。学生の平均的な学力やバラツキ度合いがまだよくわかっていないところがあり、今後の改善の余地があると考えている。本授業は専門科目の中では基礎的な分野であるが、国家試験に向けては大切な科目の一つでもある。多くの学生は、国家試験の為だけではなく、食品に関しては興味関心を持っているはずであるので、そういった授業にしていく必要がある。

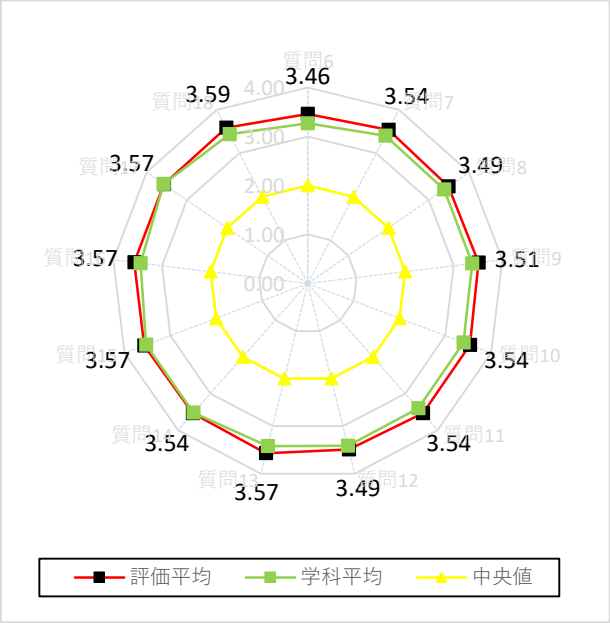
（３）次年度に向けての取り組み

食品学の授業評価においては、特に大きな課題は無いようであった。しかし、学生の中には明らかに理解ができていない者や理解に苦労している者も見られた。食品学の基本的な知識において、より丁寧な説明が必要であると感じている。また、前年度も小テストや課題プリントを実施したことは良かったと思うので、より試験勉強に直結するように小テスト、課題、定期試験をリンクさせて臨みたいと考えている。また、学生が授業に能動的に参加するように、板書やパワーポイントの使い方を考えたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品学実験	112名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

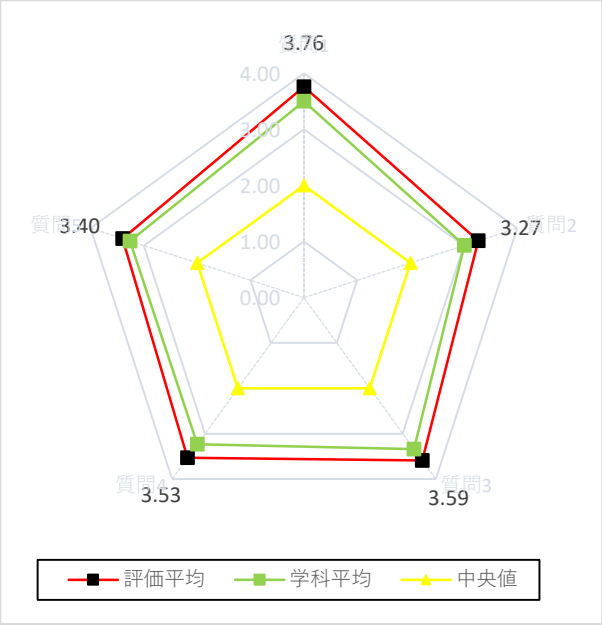
食品学実験の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。化学を背景にした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとっては難解に感じることがあるようだった。実験の内容としては成分表の理解に重きを置いており、実験としてはやや面白みにかけるところがあるかもしれない。しかし、資格取得のための基礎知識としては食品学においては必須と考えるので、内容の変更は考えていない。

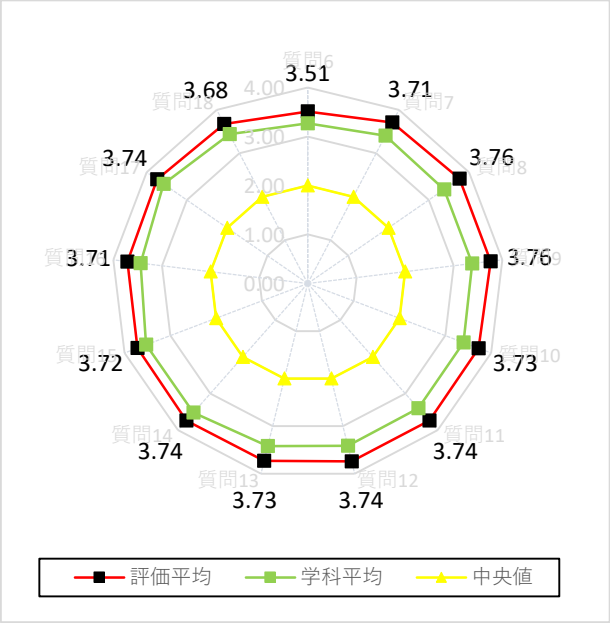
（３）次年度に向けての取り組み

化学を背景とした内容であり、計算や化学反応の理解などが、学生にとって難解に感じるところがある。この点については、説明や計算を一緒にすることなど、もう少し時間を取りたいと思っている。実験内容の部分的な変更や、できるだけ全員が主体的に取組めるような方法などを少しずつ工夫していきたいと思っている。化学実験は危険も伴うものなので、何より事故やケガが起こらないよう細心の注意を払っていきたい。また、前年度の反省として、実験と試験の関係性が薄かったように思うので、定期試験の内容と評価についても工夫が必要と思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理学	121名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

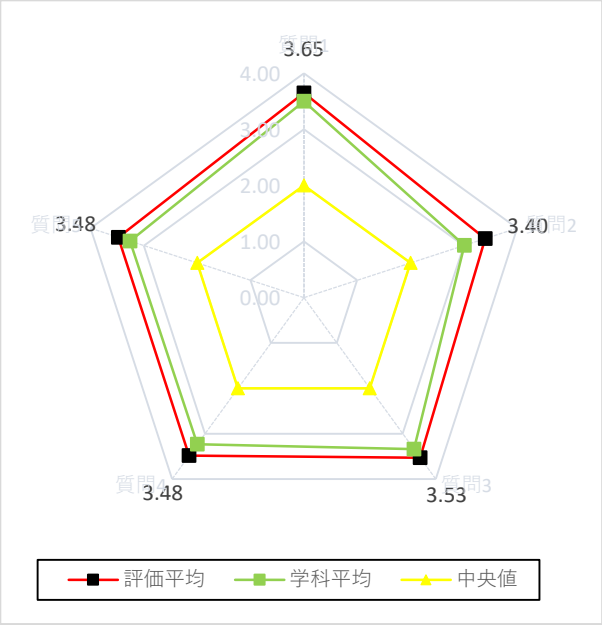
調理学の授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。国家試験にも関連する内容であることから、１年生時より国家試験問題にふれされる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。

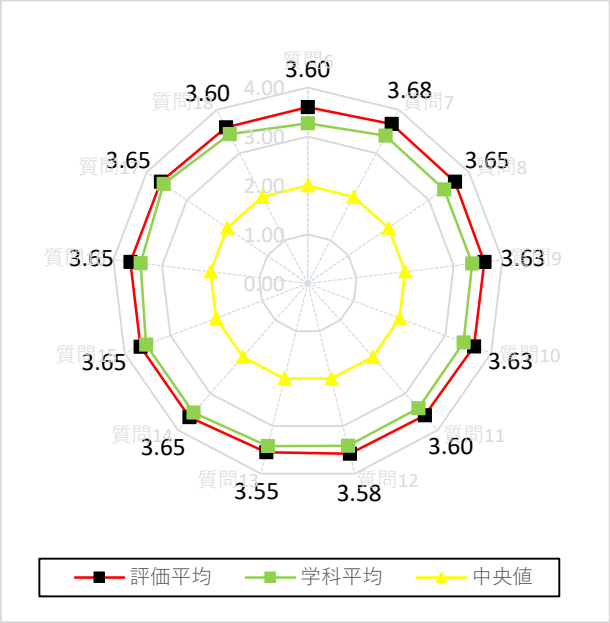
（３）次年度に向けての取り組み

座学中心ではあるが、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、国家試験においては最も基礎となる科目でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学	118名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

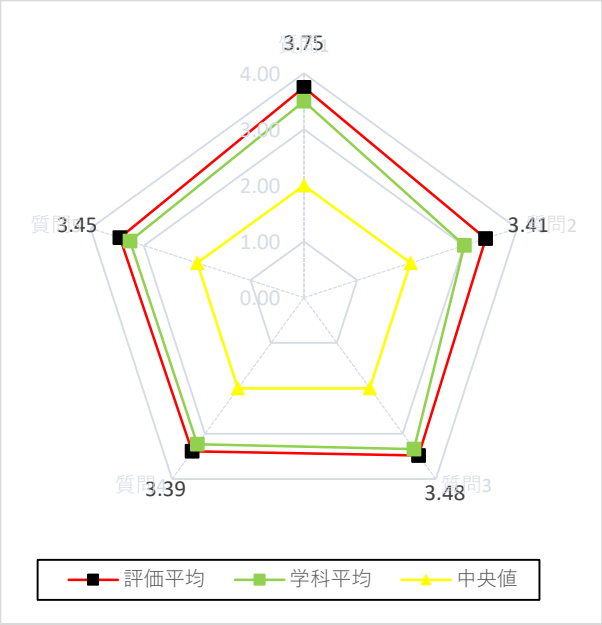
質問1～5の評価は、学科平均を少し上回っており、学生が熱心に授業を受けていてくれたことがわかった。また、質問6～18もすべて学科平均を上回っており、授業のやり方に大きな問題はないと判断した。ただ、質問13で授業の進む速さについて問われており点数では問題がない（3.55）が、自由記述を見てみると一人の学生が「進むの早くて、授業が頭に入らなかった」と記載していた。なので、今後は、授業の進行スピードについて配慮していきたい。また、117人受講しているにも関わらず回答者数が40人で回答率が34.2%であるので、もっと多くの学生に、評価してもらえるように呼び掛ける必要を感じた。

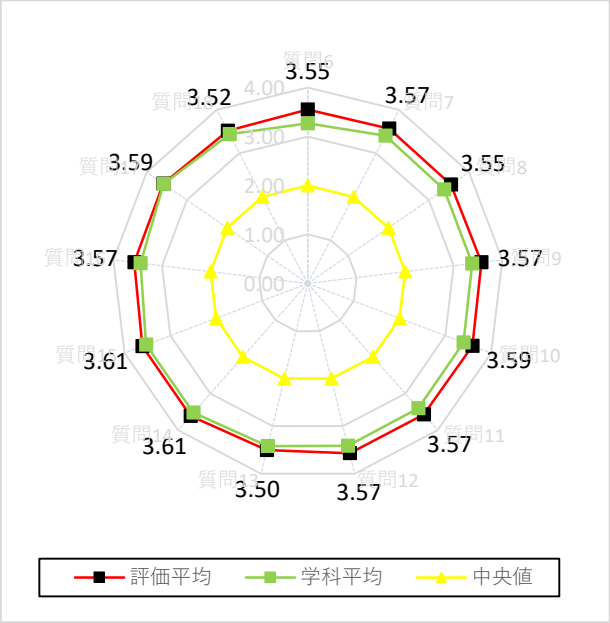
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述の中で、毎回復習プリントが配布されるので、自学しやすいと記載があった。よって、次年度は学生がさらに復習しやすいように、改良していきたい。また、学生は、授業のスライドを写すのを必死になってやっているが、私としては、頭にいれながら授業をきいてもらいたいと思っている。そのため、写す必要のない箇所の明示も行っている。それでも学生はスライドを必死になって写すため、授業の居眠りが非常に少ないというメリットはあるが、頭に入らないのはとても残念なので、バランスをみながら改良していくつもりである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事設計実習	119名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

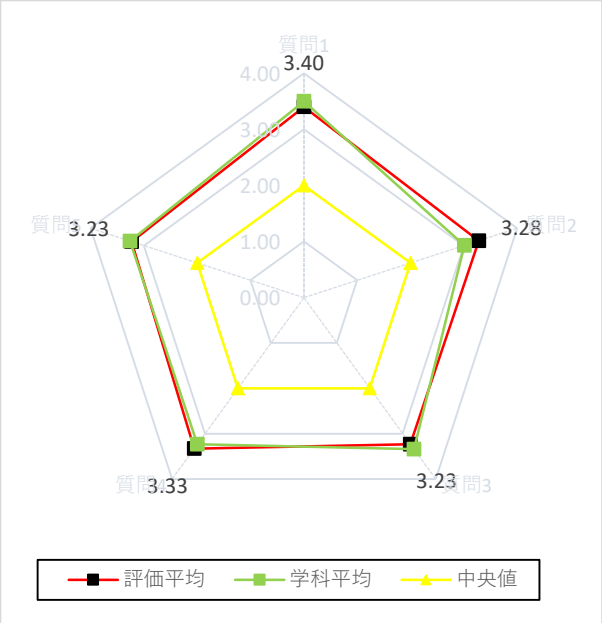
各項目が高い平均点だった要因として、学生の声を多く聞きながら習熟度に応じて実習を展開していったことが関連していると思われる。

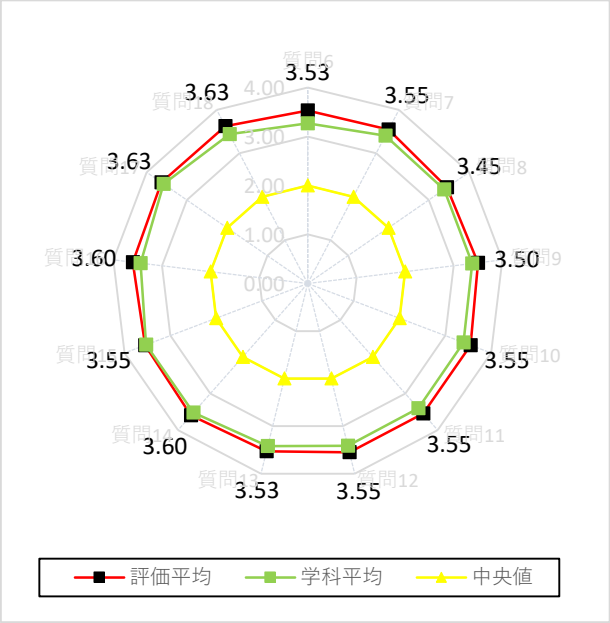
（３）次年度に向けての取り組み

今後も学生の満足度及び習熟度があがるように、双方向性の授業や学生のニーズに注目しながら進行していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	114名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

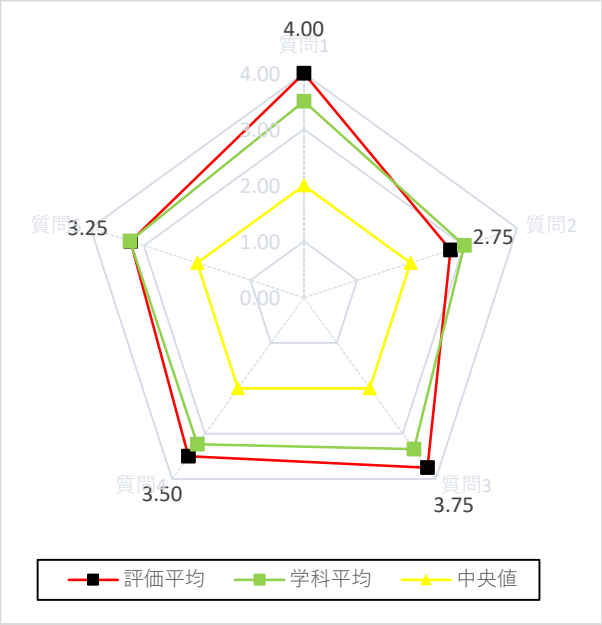
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。また、国家試験にも関連する内容であることから、国家試験問題にふれされる機会を設ける工夫をしたことは良かったと考えている。しかしながら、学生によっては理解度に差があると考えられるため、改善の余地はあると思われる。

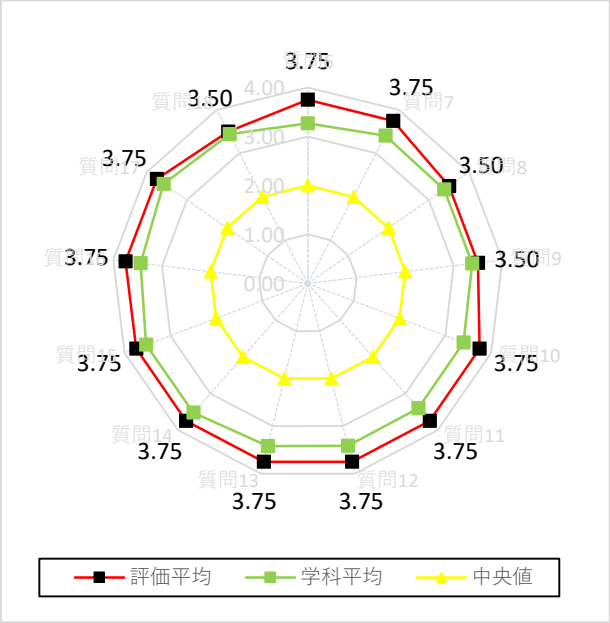
（３）次年度に向けての取り組み

ライフステージ別栄養学は座学中心ではあるが、自主的な学習を促し、意欲的に参加できる工夫をしていきたい。また、栄養士だけでなく国家試験においても、本知識は最も重要となる事項でもあることから、より個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		応用栄養学実習	108名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

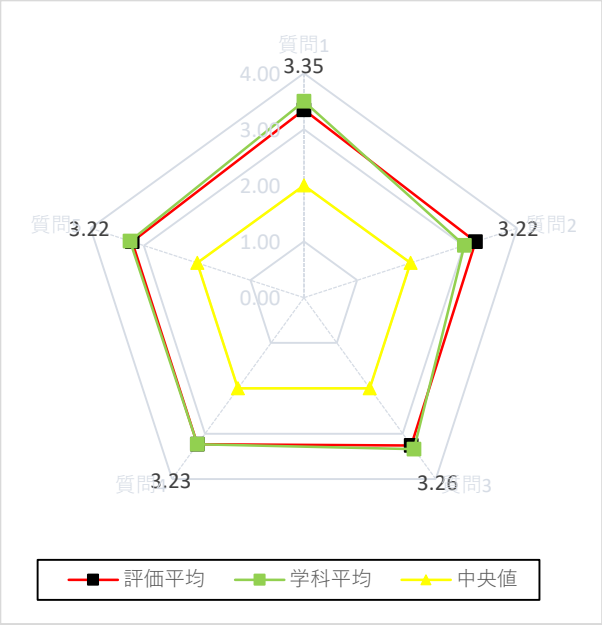
応用栄養学実習の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。しかしながら、本授業は実習科目であるので、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上など、学生自身の授業への取組みにおいては改善の余地はあると思われる。

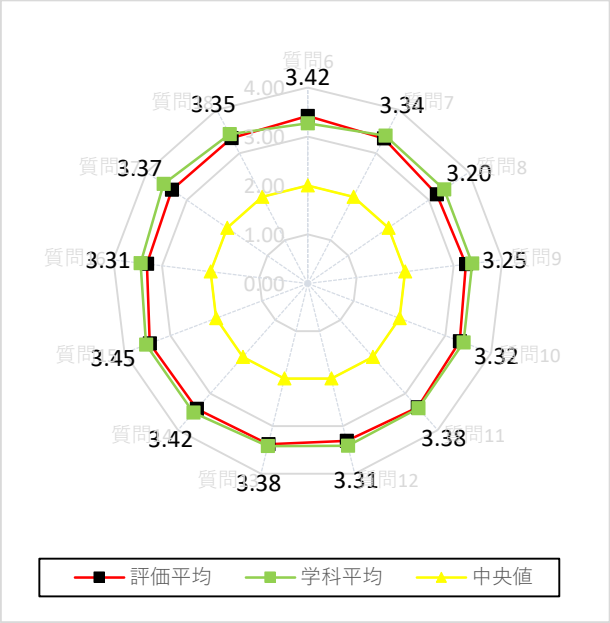
（３）次年度に向けての取り組み

応用栄養学実習はグループワークを中心とする実習を主とする科目であるので、より意欲的に参加できる授業内容になるよう授業展開を工夫していきたい。また、個々の理解度や反応に配慮した指導を心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅰ	109名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

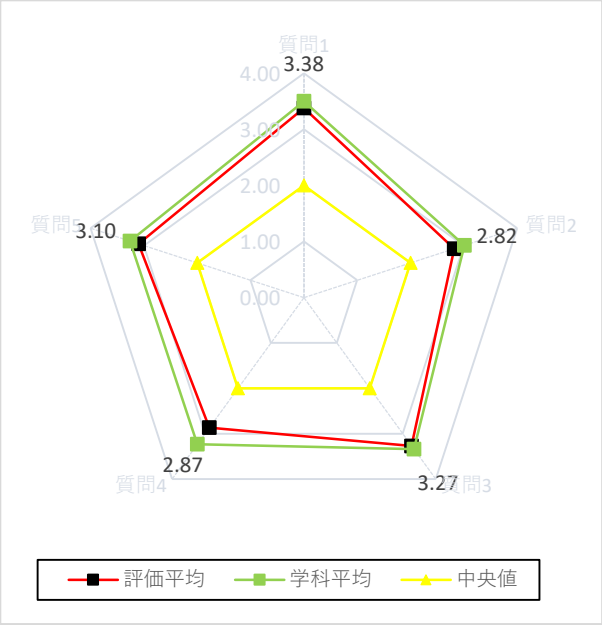
授業の参加率、授業態度ともに良好であった。健康・栄養に関する法律や施策についての内容が多く、興味・関心を持ちにくかったようである。
授業中にカッコ埋めのプリントを使用したことは、居眠り、私語の防止に役立った。

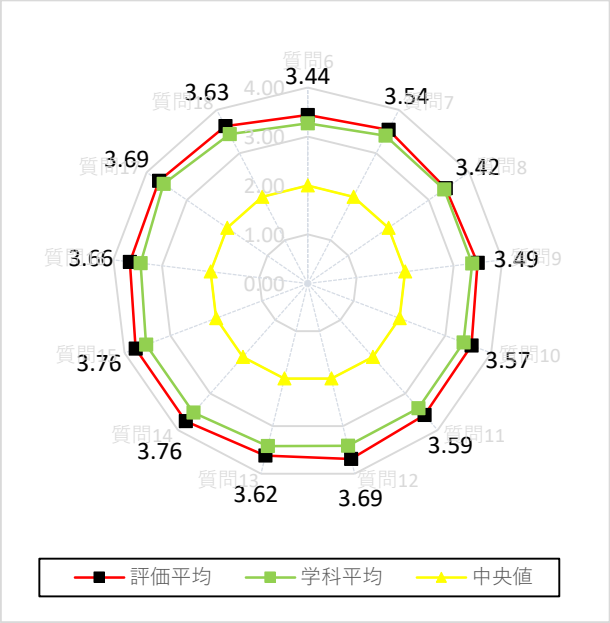
（３）次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるよう、授業内容の工夫に努める。さらに、双方向的なやり取りをもっと取り入れながら進めることに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学実習	97名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

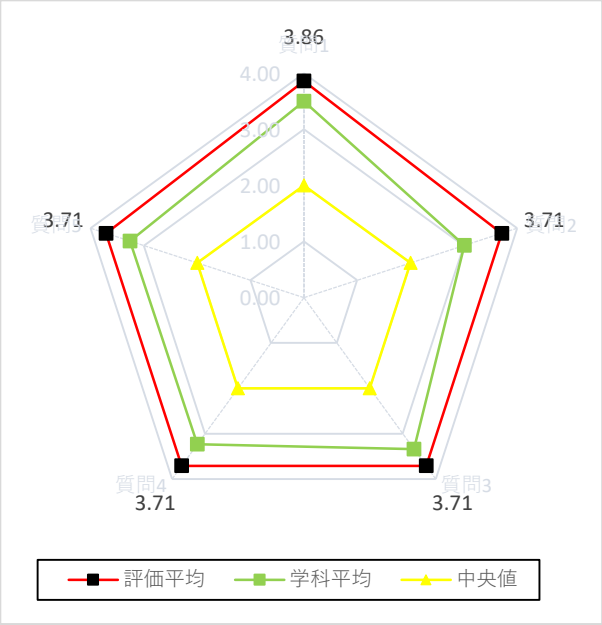
学生の出席率は高く、授業への取り組みも積極的だったが、授業に向けて自ら学ぶ姿勢は低かった。
授業は、前半は個人で、後半はグループで作業を行う内容であったため、積極的に学ぶ学生と、消極的な学生との差が生じた。
また、パソコンを使用しての作業が多いため、パソコン操作の得意な学生と不得意な学生とで差が生じ、不得意な学生にとっては、興味・関心が持てなかったようである。

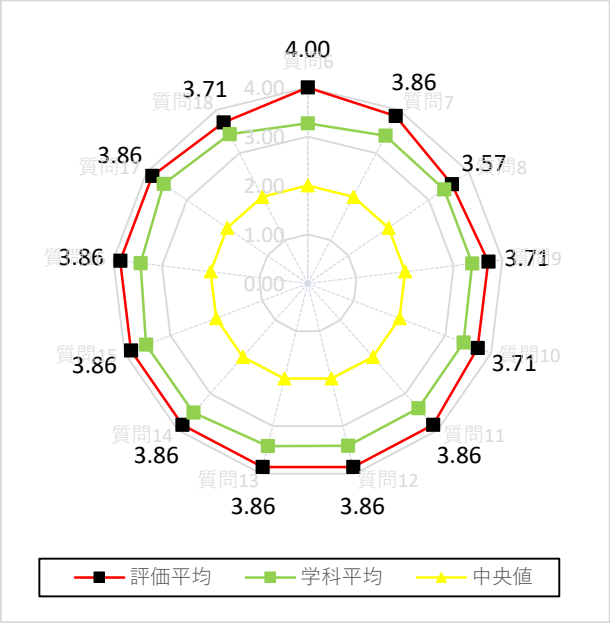
（３）次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるような授業展開となるように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅱ	112名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

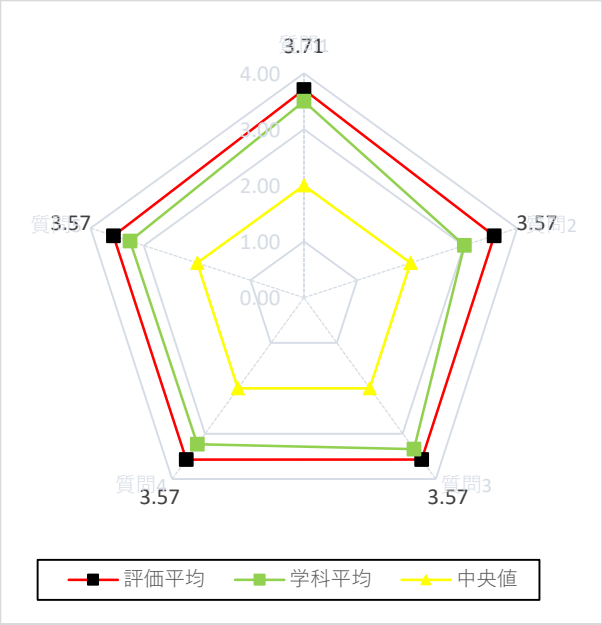
業の参加率、授業態度ともに良好であった。健康・栄養に関する法律や施策についての内容が多く、興味・関心を持ちにくかったようである。
授業中にカッコ埋めのプリントを使用したことは、居眠り、私語の防止に役立った。また、質問シートの提出により、毎回の授業初めに前回理解できなかった内容について復習を行ったことで、双方的な展開ができた感じる。

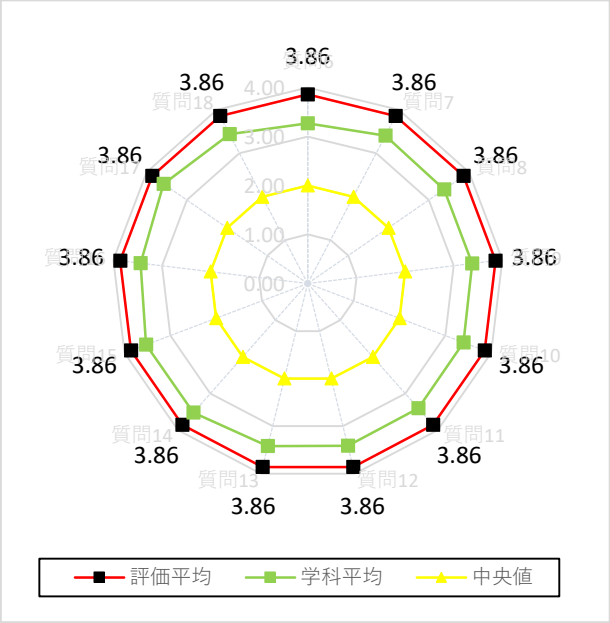
（３）次年度に向けての取り組み

興味関心が持てるよう、授業内容の工夫に努める。さらに、双方向的なやり取りをもっと取り入れながら進めることに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		給食経営管理論	113名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

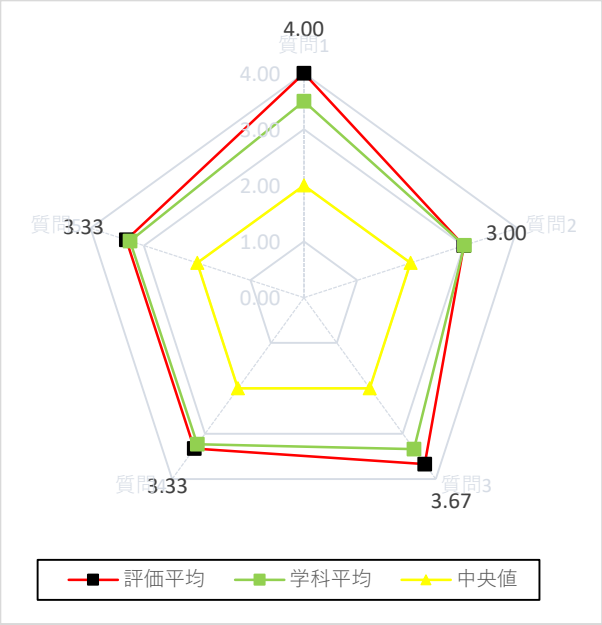
大人数を対象とした講義であるが、講義の目標を明確にしながら進行したこと、配布資料の工夫、演習形式の講義などが、高い点数に繋がったと考えられる。

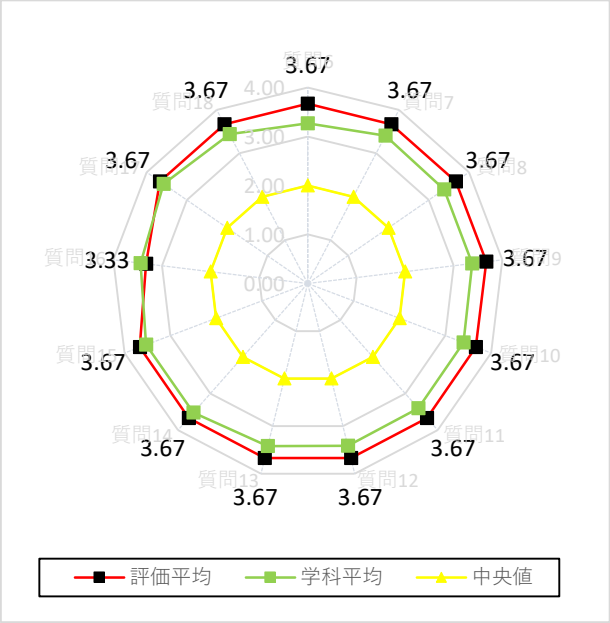
（３）次年度に向けての取り組み

今後も学生の習熟度をみながら、講義を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		給食経営管理実習	108名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

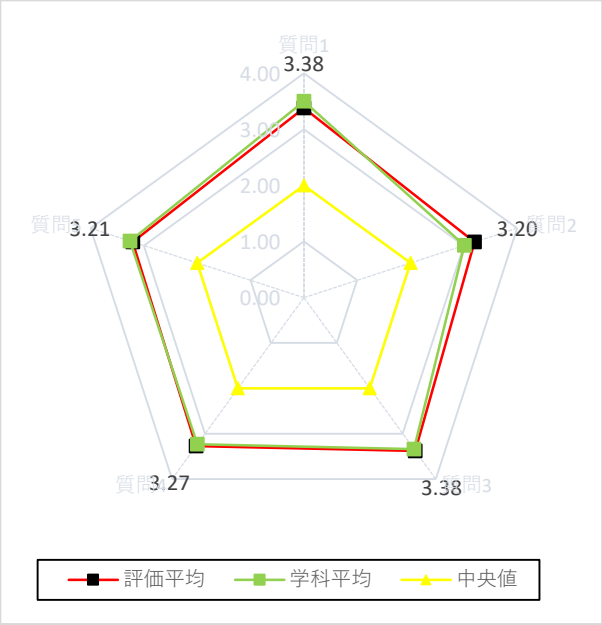
給食管理の実務的な内容となる本実習では、可能な限り実際の現場を想定した実習としたことが、学生の高い評価に繋がったと考えられる。
また、時間外の学生からの質問にも多く対応したことが習得度の向上に繋がったと感じている。

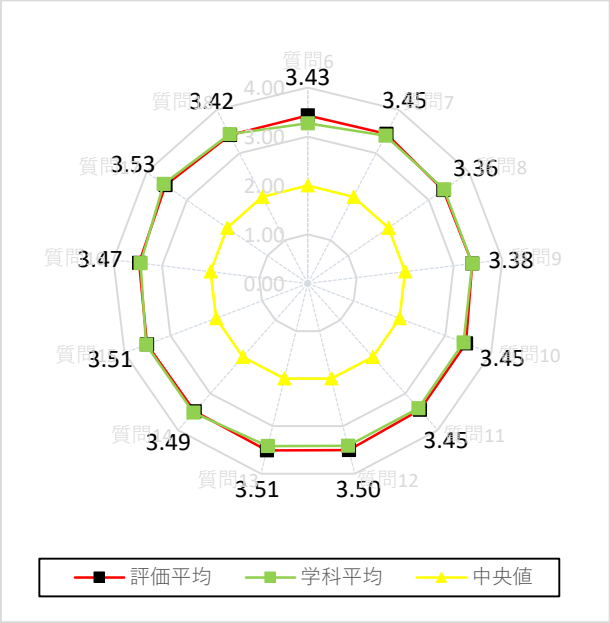
（３）次年度に向けての取り組み

実務に直結する実習であるので、今後も給食管理の一連の流れを把握できる体系的な実習としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅱ	94名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

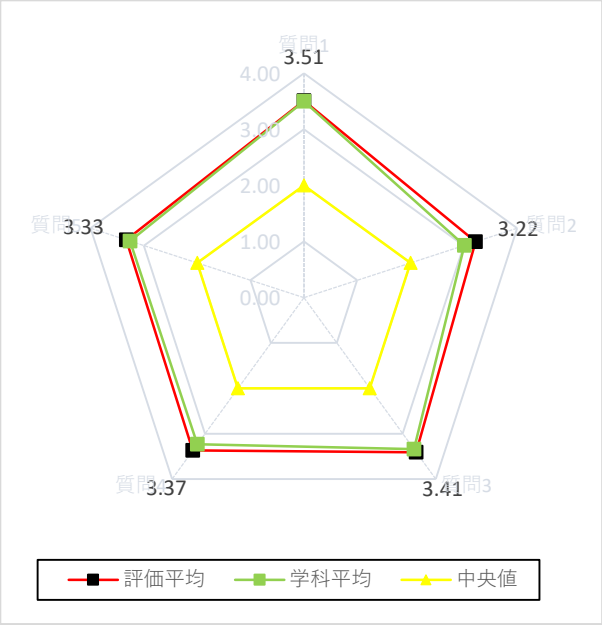
臨地実習の事前事後指導であり、学生も目的意識をもって取り組めた結果であると考える。

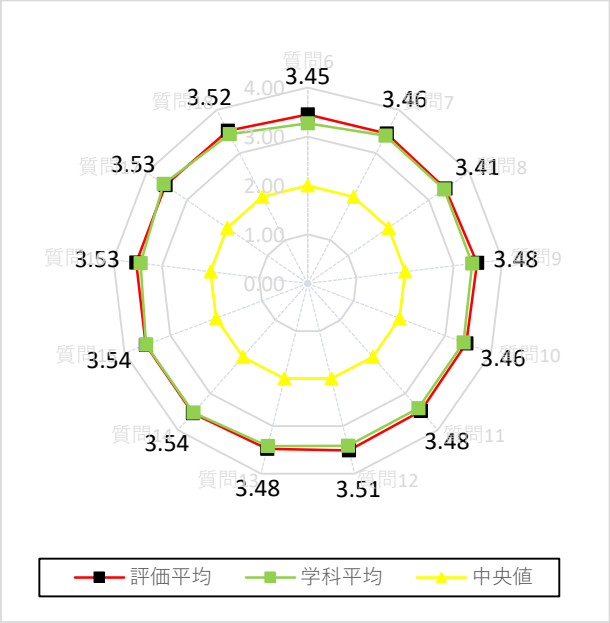
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も実習がスムーズに行えるような事前指導・事後指導に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	94名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

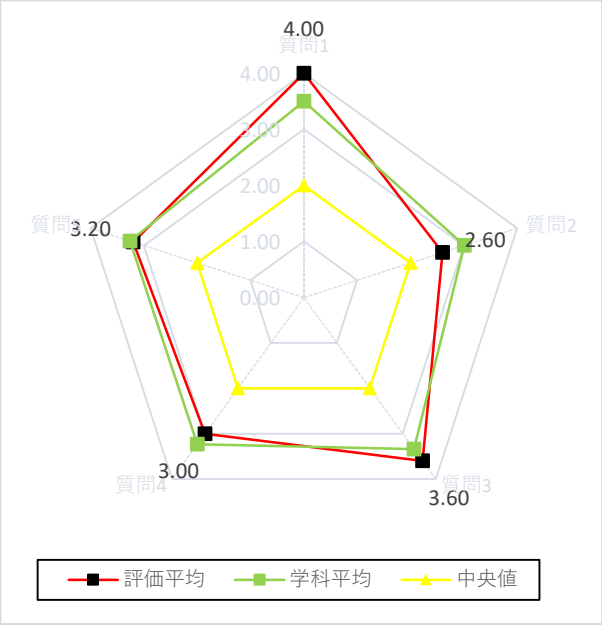
臨地校外実習であり、積極的に取り組めていた。

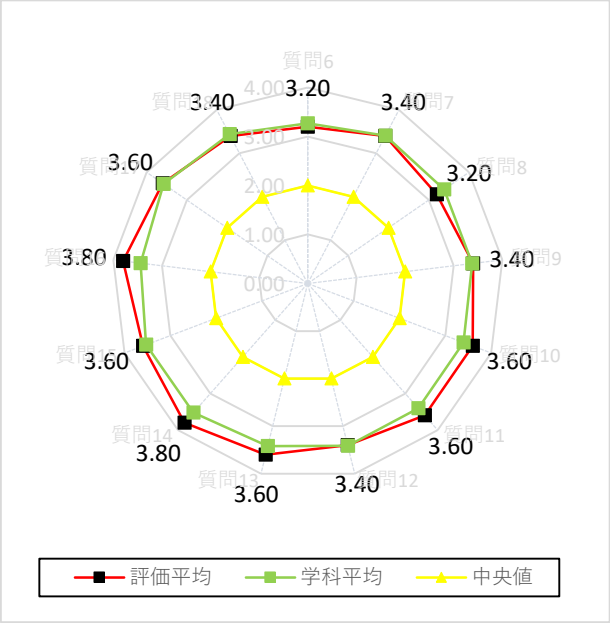
（３）次年度に向けての取り組み

臨地校外実習先での学びが有意義なものとなるように、継続して事前指導を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学実験	105名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

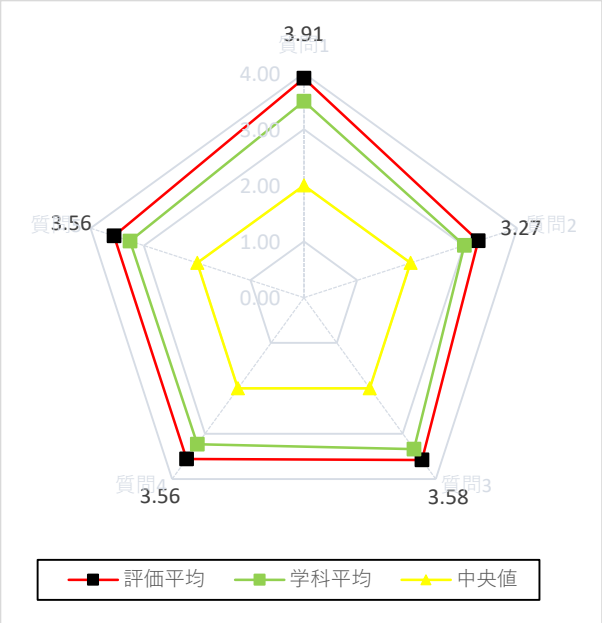
105人受講しているにも関わらず回答者が5人であった。これまで、実験は授業評価対象科目ではなかったことが影響しているかもしれない。
質問1～5の回答をみていると授業に参加はしているが、自主的に授業を理解するために、工夫がみられておらず、学生が受け身であったことがわかる。実際レポートをみてみても、積極的に自分で調べて考察している学生が少なかったように感じた。自主的に取り組む時間をたくさん与えているが、やり方がわかっていないので、取り組めていない可能性があるので、その点について今後指導する必要があると感じた。質問6～18では、シラバスの説明についての評価が低かった。たしかに、実験ではシラバスのことは触れていなかったので、今後はシラバスについて触れる必要がある。

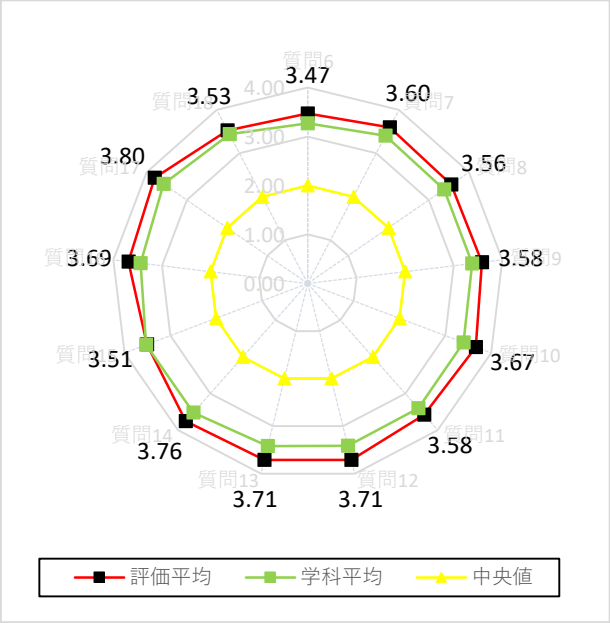
（３）次年度に向けての取り組み

授業の最初に、実験をする意義や結果の見方について説明しているが、結果から推測されることについては学生に考察させている。そのため、その結果が何を意味するのかわからないまま、もしくはあっているのか不明なまま、次の実験をしている学生が多いので、授業の意義がわからずに関心をもてないのではないかと感じた。考察を教えてしまうと、みな同じ一様な考察になってしまい、真の考察でなくなるため、あえて説明していなかったが、現状をみるとやり方を変える必要があると感じた。
今回は、たった5人しか評価しておらず、自己評価の低い学生が回答していたので、次年度は熱心に取り組んでいた学生の評価も知りたい。そのためには、評価をしてもらえるように、働きかけていこうと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		化学	63名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

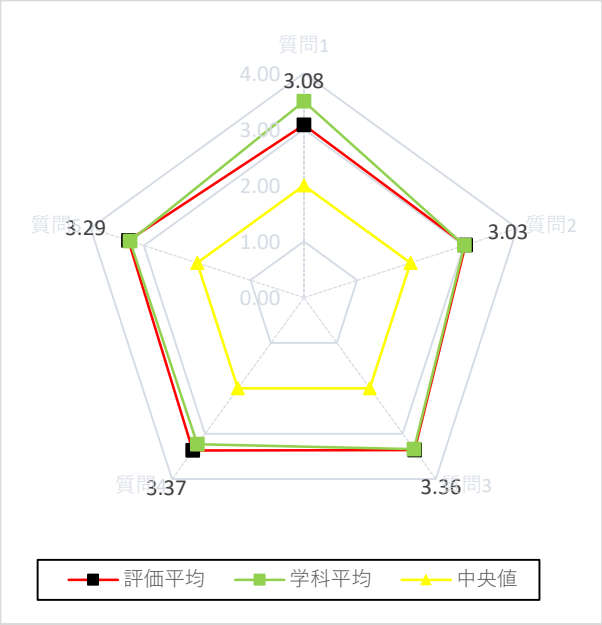
学生評価の結果から、学科平均よりも高いことがわかった。特に、板書の使い方、声の大きさ・明瞭さ、話す速度、授業の進度、教員の熱心さに対する評価が高く、とても嬉しく感じた。化学は、最初の時間にクラス分けのテストを実施し、その点数に応じて2クラスに分けている。私のクラスは、点数の低い方のクラスで、化学嫌いの学生の多いクラスであった。まずは、化学嫌いをなくすために、なるべく簡単にわかりやすく説明し、化学は難しくない、おもしろい、ということを植え付けることを心掛けた。また、毎回、前回の授業の振り返りの小テストを行い、自分で学ぶ癖を付けさせて、自信をつけさせるようにした。その結果、最後の定期試験では、最初と見違えるくらい良くできるようになり、私自身とても嬉しく、やりがいを感じた。

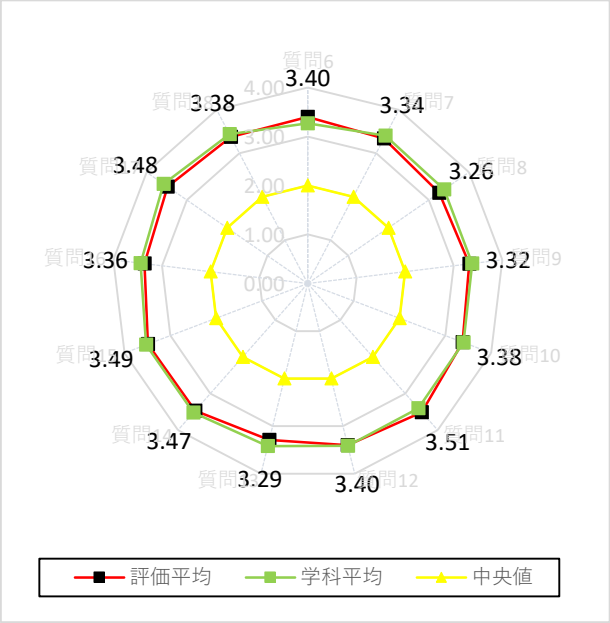
（３）次年度に向けての取り組み

来年度も、昨年と同様のやり方でやっていくようにしたい。これまで同様、化学をこれまで受講してこなかった、あるいは受講してきても化学嫌いだったという学生がいると思うので、まずは化学嫌いをなくすことから始めたい。独りよがりの授業にならないよう、例題を挙げて、ホワイトボードに書かせるなど、学生が参加できるような工夫を多く取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅱ	94名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

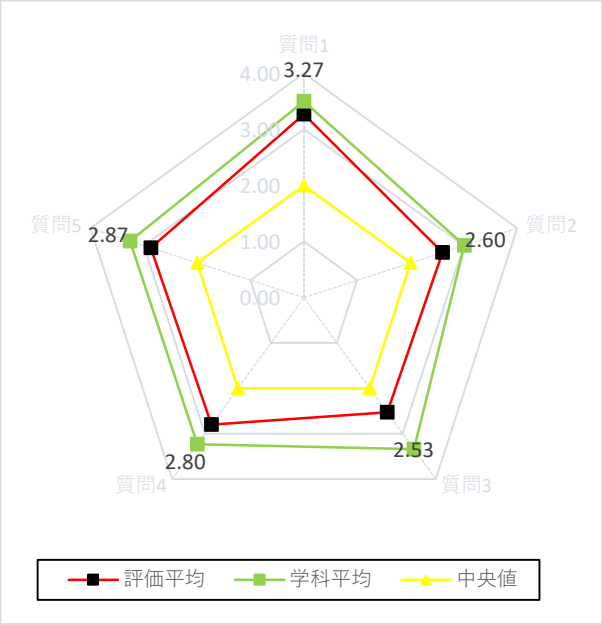
健康栄養学演習Ⅱの授業評価においては、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、改善の余地はあると思われる。国家試験に関連した内容であり、学生の取り組みも真剣であり、成果は十分に上がっているように感じている。オムニバスの授業であるので、それぞれの教員の授業に対する取り組みは明らかではないが、総合した評価として学生の満足度が高いことから、うまくいっているように考えている。

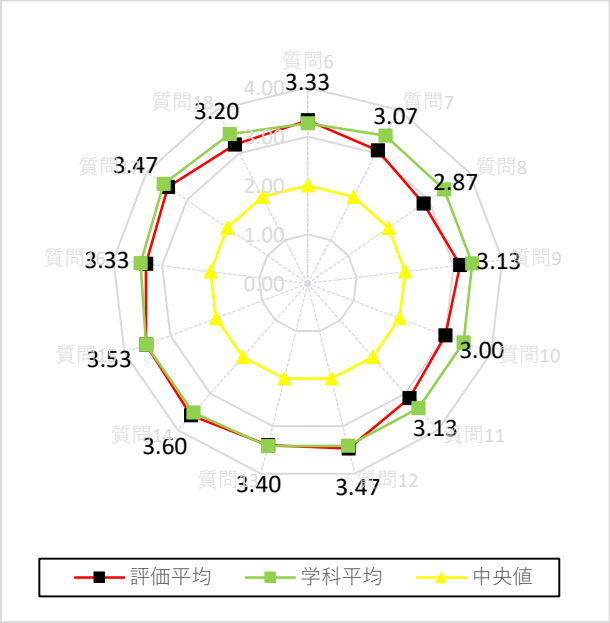
（３）次年度に向けての取り組み

国家試験に関連した内容であり、学生にとって難解に感じるところもあると考えられる。この点については、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。また、オムニバスであることから、一人の教員ができる内容が限られているが、この点についても、4年時に関連した授業がたくさんあることから、十分に補えると考えられる。いずれにせよ、すべての項目において、学科平均と同じレベルにあり、おおむね満足できる内容であったと考えている。改善の余地はあると思われるが、それぞれの教員が各自の専門分野で、毎年工夫を重ねているので、より評価が高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	32名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

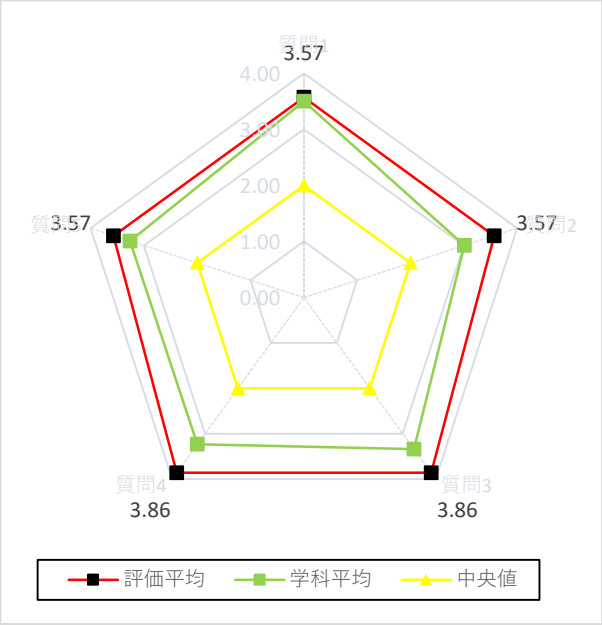
まず質問1～5までの学生自身の評価では、出席状況が3.27と最も高い評価であったもののその他の項目については3.0をやや下回る結果であった。総合評価の質問5においては、2.87と普通の評価であるが、回答の「やや悪い」評価を選択した者も各質問に数名いる。質問6からの評価では、質問8以外は3.0を超える結果で、質問18の総合評価の3.20から見ても全体的にはほぼ良好な結果が得られたものと考える。また、評価図形から見ると、質問12以降に高い評価を得られたことで多少円形のゆがみが生じているようにも見える。そのため今後は、質問6から11の項目における改善が必要と考えられる。

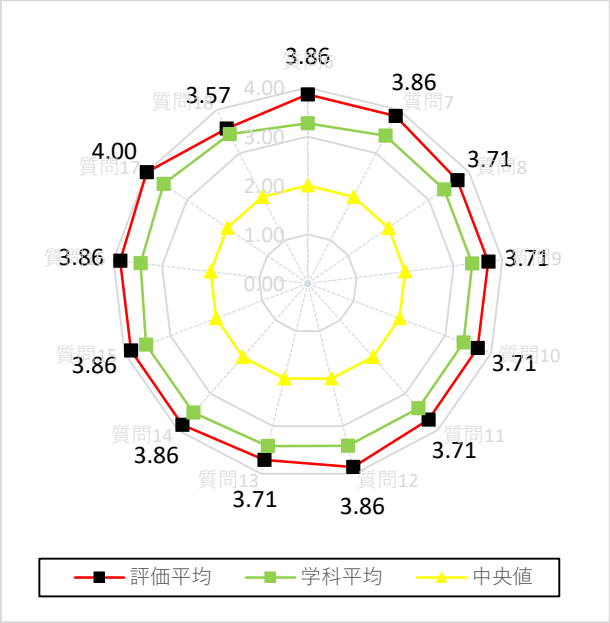
（３）次年度に向けての取り組み

質問1から5までの結果から、授業参加の良好な態度について指導を促すことを心がけたい。また、質問6以降の結果からは、今後もこの状況を継続することも重要であるが、特に評価の低かった質問8の授業の興味や関心が持てる工夫の改善について今後取り組む必要があると考える。教科内容としては、栄養学とは少し異なる分野ではあるが、関連ある内容でもあり、分かりやすく今後に活かせる内容の授業を展開できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健康栄養学演習Ⅰ	97名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

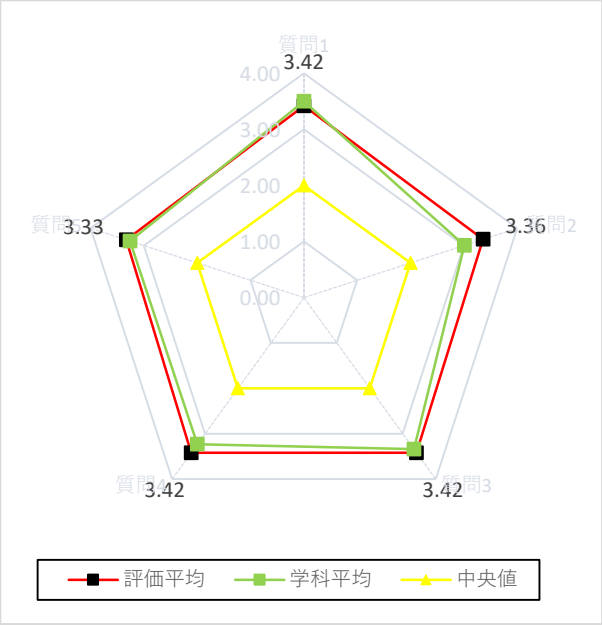
この科目は、栄養士実力認定試験に向けた内容の授業を13名の先生方で行った。
専門の先生方によるオムニバスの授業は初めてで、国家試験の入門の科目ともいえる。
いずれの質問も学科平均よりも高かった。
ただ、一人当たりのもちコマ数が少ないので、すべての内容を網羅できない。
また、試験にクリアした人数も多くなかった。

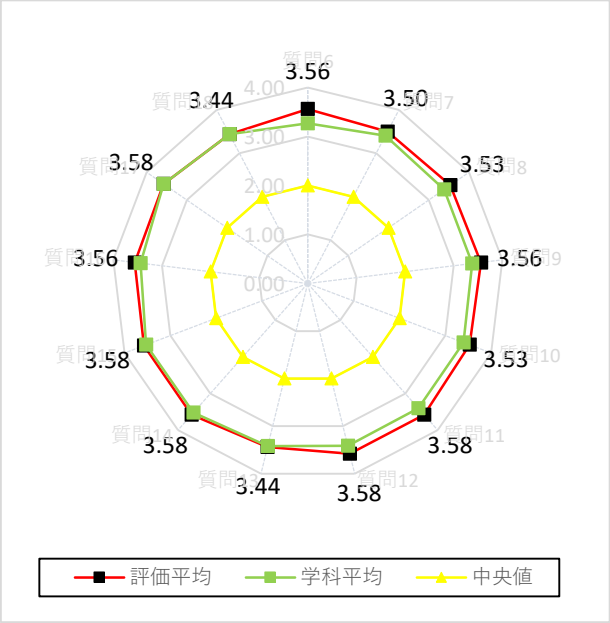
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、内容を大きく変える予定である。
これまで評価を試験で行っていたものをレポート等で行い、国家試験に向けたモチベーションを上げるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品機能学	103名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

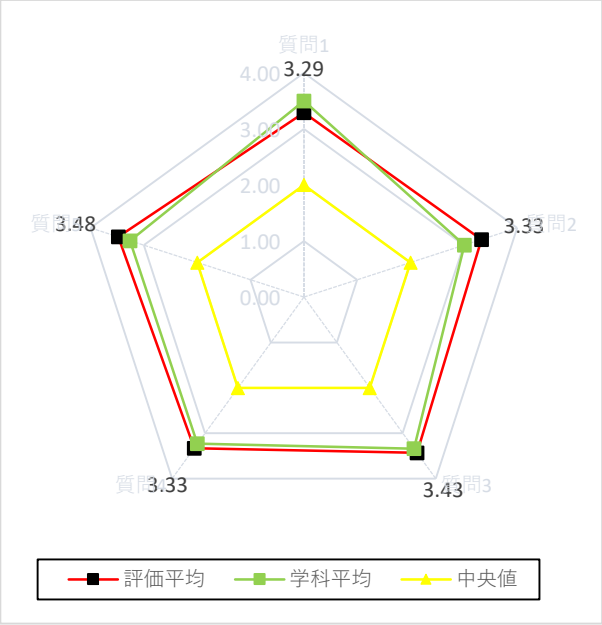
学科平均と程同じ数値であった。授業はわかりやすく工夫されていたかが少し高評価であった。この科目は、選択科目で試験をシビアに行うため、受講を取り消す学生もいた。しかし、国家試験の内容も含まれているため、国試を目指す学生にはぜひ勉強してもらいたいので、授業中にこれは国家試験に出ましたなど、重要性をアピールした。

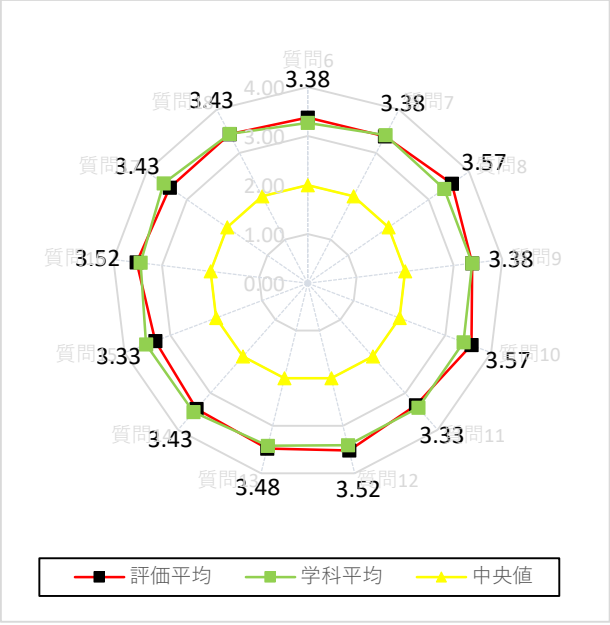
（３）次年度に向けての取り組み

来年度も、今年度と同様に国試に視点を置いた内容で、しかもわかりやすく説明することを心掛けたい。大人数であることから、うるさくならないよう、興味を引くような授業にしたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職論	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

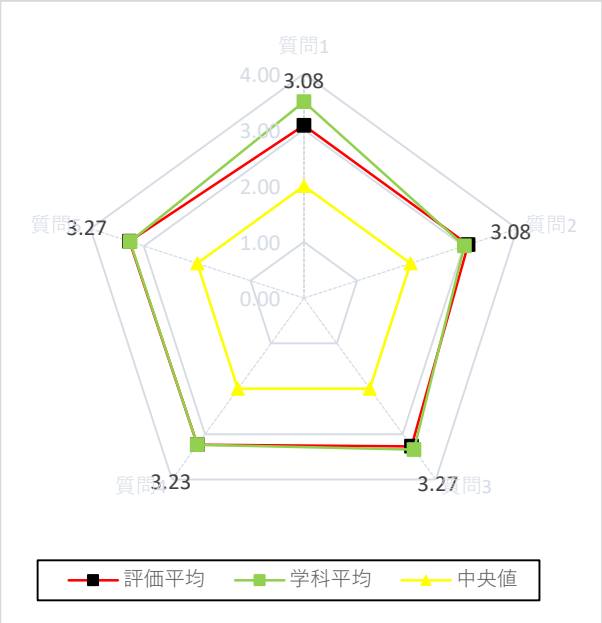
今年度はこれまでやっていなかったグループワークを導入しました。大人数の講義型でグループワークはやりにくい部分がありましたが、学生の学びを深められたと考えています。また、ワークシートの添削にも力を入れました。

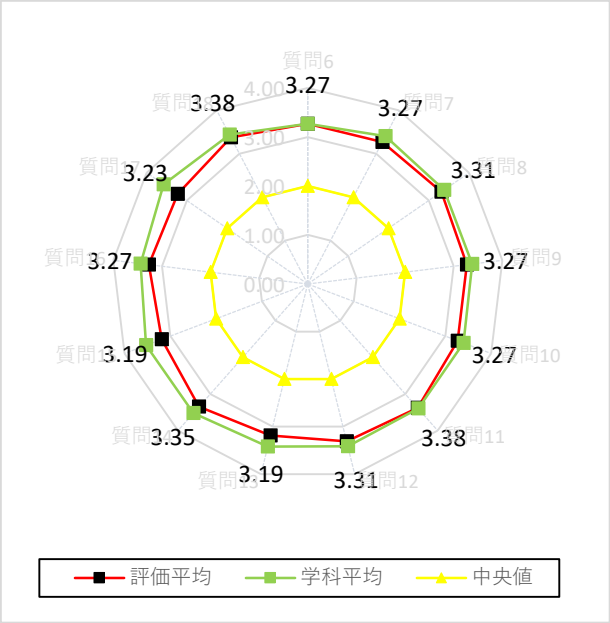
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は今年度よりも受講生が増えるので、さらに授業方法に工夫が必要かと思います。それぞれの学科の学生の特性に合った（最大公約数の）ような授業づくりを心がけたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育制度論	54名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

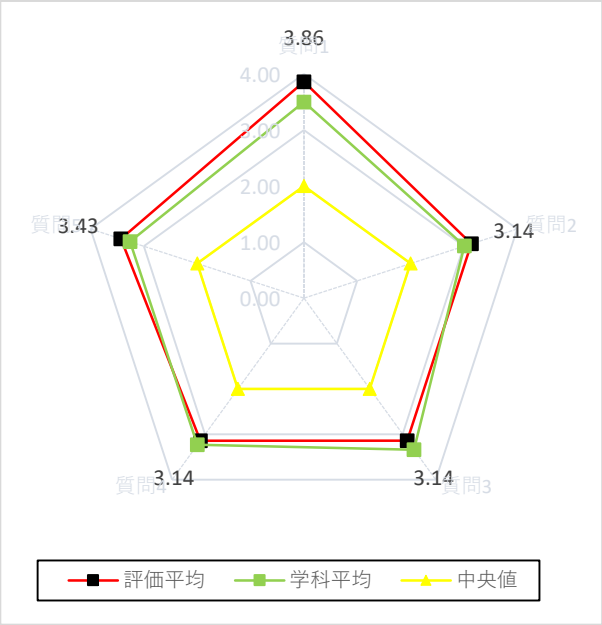
今年度はこれまでやっていなかったグループワークを導入しました。大人数の講義型でグループワークはやりにくい部分がありましたが、学生の学びを深められたと考えています。また、ワークシートの添削にも力を入れました。私としては授業準備や添削などにかなり時間をかけて力を入れているつもりですので、公平性と熱心さの評価が低いことに関しては理由がわかりません。次年度の授業を進めながら、原因を見つけて改善策を考えてみたいと思います。

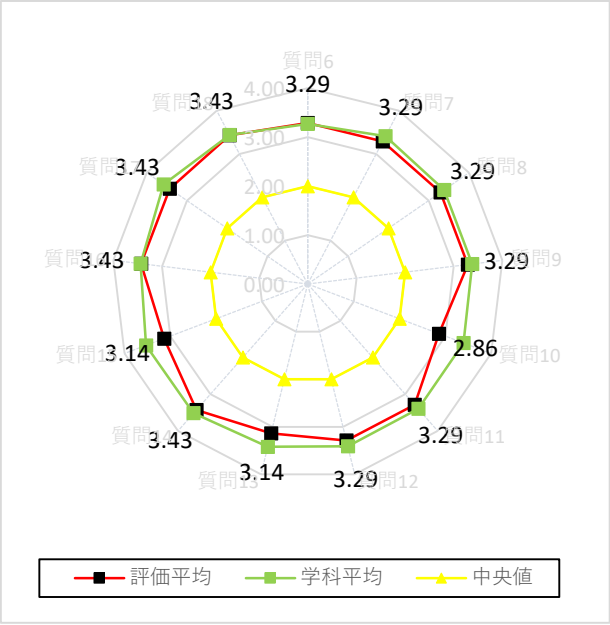
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は今年度よりも受講生が増えるので、さらに授業方法に工夫が必要かと思います。それぞれの学科の学生の特性に合った（最大公約数の）ような授業づくりを心がけたいと考えています。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育課程論	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

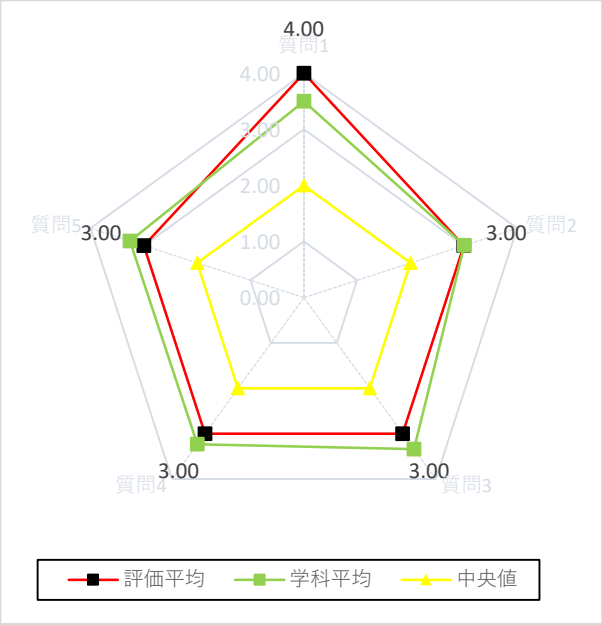
回答者は41名中7名である。全般に、自己評価も授業のやり方についてもまあまあの評価である。学生の授業参加の評価はよく、授業のあり方もある程度の水準を確保できたように思う。学生はまじめによく授業に参加した。人数も多くなく、大変楽しい授業であった。学生の授業への協力を得られたことが何よりであった。専門や興味の大きく異なる学生への授業であるため、どこに照準を合わせるか、苦労した。それにしては良い評価をもらったと思うので、自己省察を厳しく行っていくようにしたい。

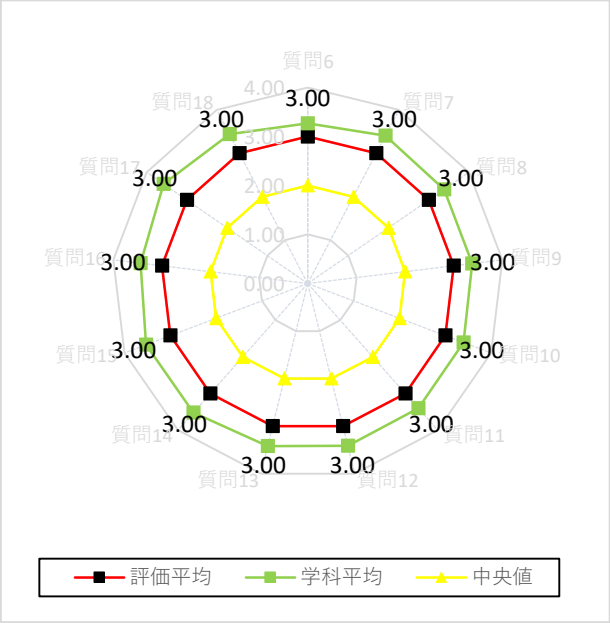
（３）次年度に向けての取り組み

今後も、複数の学科の学生を対象に行う授業であることに配慮して、学生の主体的な参加を中心に、学生と協力・協議しながら、授業のやり方を工夫していく。また、学生との信頼関係の構築にも努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ヘルスフード科学	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

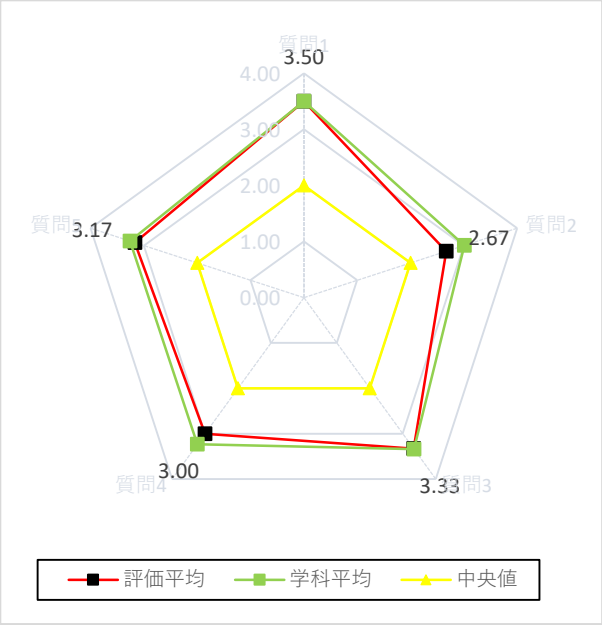
この科目は、今年度初めて受け持った科目である。
私自身としても、どのように進めるべきか悩んだこともあり、全体的な評価が悪い。
「食品機能学」と被る部分もあるため、すみわけをどうすべきか、改善の余地がある。

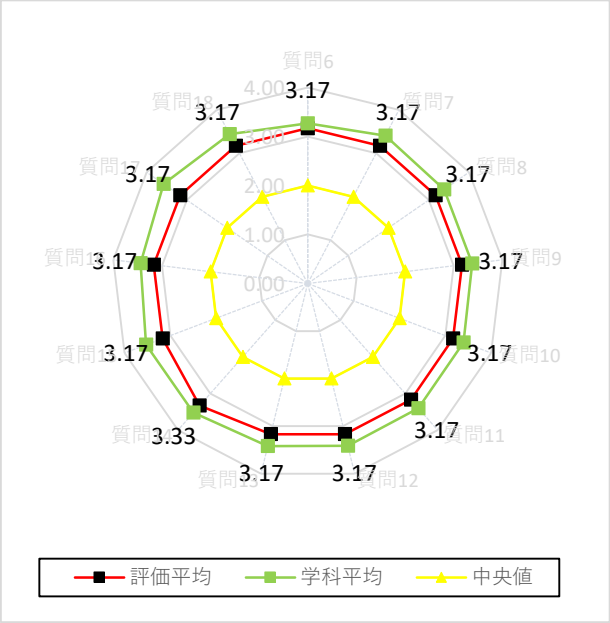
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、「食品機能学」と内容をきちんと分けて臨みたい。
また、座学だけでなく、グループディスカッションなども取り入れて、学生も授業に参加できるような形式でやってみようと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		地域の食産業	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

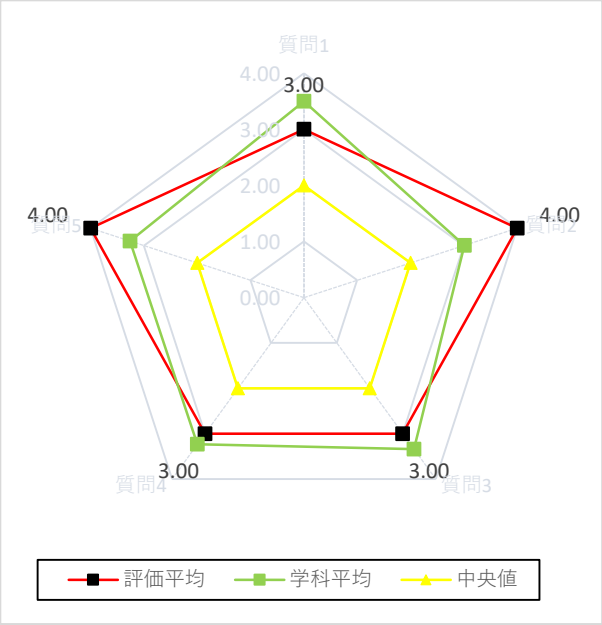
この授業は、7名のゲストスピーカーによる講義も取り入れたり、バーチャルにて商品開発を行うという趣向を凝らした授業であった。
しかし、評価は思ったほど高くなく、非常に残念である。
ゲストの授業内容にばらつきがあるためではないかとも考えられる。
商品開発に時間が足りなかったこともあるようなので、もう少し余裕を持たせたい。

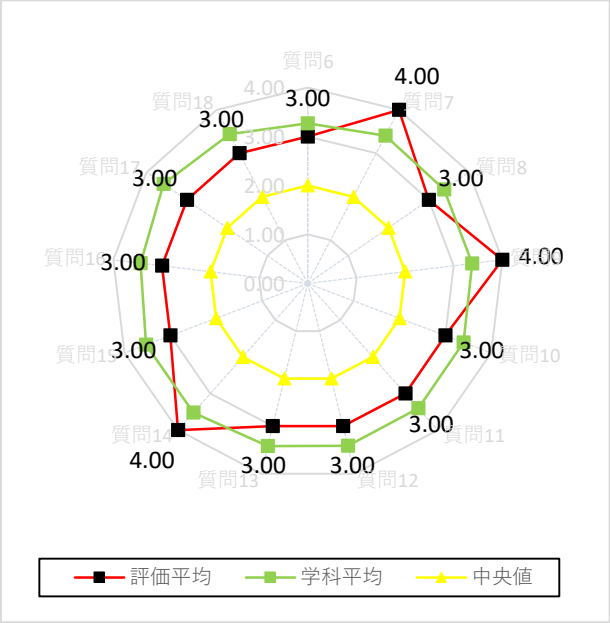
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、今年度と同じスタイルで行う予定である。
ゲストに授業の趣旨や流れをもう少し詳しく説明し、全体的なまとまりがあるように工夫したい。
商品開発にかかる時間をもう少し確保し、余裕を持たせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		教職実践演習（栄養教諭）	15名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

複数の教員で担当しているため、個別の評価を把握しにくい点がありますが、教職を目指す学生に必要な知識や考え方については、十分に伝え、感じ取らせるように工夫はしました。ただし、評価の低い項目がたくさんありますので、担当教員がそれぞれ反省すべきところはあろうかと考えます。

（３）次年度に向けての取り組み

学生のニーズを具体的に把握し、そのニーズに合った情報や知識を高めることができるような授業づくりに努めたいと思います。